

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	環境学習課
課長名	東田
実施番号	
I - 3 - (3) - ①	
事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金
	<input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金
	<input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理
	<input type="checkbox"/> その他
()	
(人件費備考)	

事業概要						
事業名	北九州環境みらい学習システム推進事業				実施番号	
					I - 3 - (3) - ①	
事業概要	本市の恵まれた自然や充実した環境関連施設等と結びつけ、多世代の市民が意欲や能力に応じて、エコツアーなどまち全体で楽しく環境学習が行える仕組みづくりを行います。					事業手法
コスト	25年度当初予算額	25年度執行額	(事業費備考)	人件費	目金の金額	課長 0.10 人
	8,150 千円	6,545 千円	別途1,272千円を事業間流用で執行		6,400 千円	係長 0.15 人 職員 0.50 人

【Action】改善

課題	H23年度の評価結果を受けての課題	平成23年度から、既存の観光案内所を活用して試行的に実施している環境情報の提供や、ホームページにより情報発信、エコツアーの実施、それを支える人材育成に取組みましたが、より多くの多世代の市民が、環境に関する知識や行動力を身に付けることができる効果的な仕組みとなるよう、拡充を図る必要があります。また、効率的な運営に向けて、現委託業務の見直しが求められます。	見直し内容	効果的な学習の仕組みづくりを進めるため、 ○市内の充実した環境学習施設等と連携し、効果的な学習や体験となるような手法を探るための調査を実施し、結果をふまえた今後の方向性の決定 ○システムを支える人材の継続的効果的な育成手法の検討・実施を行います。 また、平成25年度から国からの補助金がなくなることをふまえ、実績・ニーズに応じた委託業務の見直しを行います。
----	-------------------	---	-------	---

【Plan】計画

【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	順調
	市民	「環境未来都市」の基盤となる持続可能な社会づくりに向け、原動力となる「市民環境力」の醸成・向上を目指し、低炭素社会の基礎知識から実践フィールドまでを学ぶことを通じて、ライフスタイルの変革などの行動を起こすことのできるあらゆる世代の人財を育成します。	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	順調
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由
	行動変革を実行する市民環境力を醸成・向上させる	65.7 %	75.0 %	70.9 %	成果指標の実績は平成24年度から若干減少しましたが、エコツアーなどを通じて、豊富な環境学習施設や自然フィールド、またそれらを活かした多様なプログラムなど、本市の資源を再発見するとともに、地域で活躍する人材の養成を通じて、市民環境力向上への一助となったと捉えているため、評価は「順調」としました。
	環境への取組において行動変革を実行することは、市民一人ひとりが日々の生活の中で身近にできることから始めることが重要となることから、「アンケート調査」内の毎日の暮らしの中で環境活動を実行している人の比率(各取組の平均)を指標として設定しました。	73.1 %		94.6 %	
	(最終目標と目標年度) 80% (H26年度)			%	
(最終目標と目標年度)					

活動計画	どうやって目的を達成するか	本市の充実した環境学習施設や先進の取組み・施策を資源として、幅広い市民に周知するとともに、楽しく効果的な学べる仕組みづくりを進めるため、 ○充実した環境学習(エコツアー)の企画・実施 ○各施設等で実施している学習プログラムの把握と連携による効果的な体験学習のあり方の検討 ○ホームページ等による情報発信の強化 ○継続した人材育成の仕組みづくりと国際会議への来訪者に向けた環境通訳の育成 などをを行います。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	順調
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由
	エコライフステージ・企画運営への参加者数	6,363 人	9,100 人	5,857 人	本市の環境シンボルイベントであるエコライフステージにおける企画運営への参加者数は、目標に届きませんでした。エコツアーの参加者数は見込みを大きく上回りました。また、活動計画にもとづき事業を実施するとともに、今後の事業の方向性を決定できたことから、評価は「順調」としました。
	本システムのアウトプットである、行動変革を伴う市民環境力を示す指標です。	6,615 人		64.4 %	
	エコツアー参加者数	2,800 人	4,400 人	6,444 人	
エコライフの推進などの行動変革に向け、導入となる環境学習への関心・意欲を示す指標です。今後はツアーのビジネス化等民間事業者などが主体的に実施する仕組みづくりを推進します。	5,611 人	146.5 %			

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	代表的な成果指標は昨年度から若干減少しましたが、活動計画にもとづき予定どおり事業を実施しました。特にエコツアーには、見込みを大きく上回る参加があるなど、楽しく学べる体験を通じ、本市の資源を再発見するとともに、ライフスタイルの見直しのきっかけになるなど、市民環境力向上への一助となったと捉えているため、成果・活動ともに順調としました。今後さらに効果的な学習の仕組みを構築するため、各環境学習施設における学習プログラムの実態調査結果とふまえて検討した方向性にもとづき、着実に取り組んでいく必要があります。また、人材育成については、本市の環境学習拠点である環境ミュージアムの指定管理業務に包括することにより、継続して効果的に実施していくこととしました。
	【経済性】(同成果を低コストで) 【効率性】(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	平成23年度から試行的に実施した観光案内所を活用した環境情報案内所運営業務の実績やニーズをふまえ、平成25年度から業務内容等を大きく見直し、効率的な運営を実施を図りました。エコツアーについては、ノウハウをもつ民間事業者やNPOによる実施を促進・支援するなど、効率的・効果的な企画・運営を行いました。

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	環境学習課
課長名	東田
施策番号	
I - 3 - (3) - ②	
事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金
	<input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金
	<input type="checkbox"/> 一部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 指定管理
	<input type="checkbox"/> その他
()	
(人件費備考)	

事業概要					
事業名	環境ミュージアム及び北九州エコハウス維持管理業務				
	北九州市の環境の取組みの歴史を継承するとともに、本市の環境力をさらに高めるため、学習・情報・活動の3つの機能を備えた、環境学習拠点「環境ミュージアム」及び家庭での省エネ型のライフスタイルを提案する「北九州エコハウス」の管理運営を行います。				
コスト	25年度当初予算額	25年度執行額	(事業費備考)	人件費	目金の金額
	74,273 千円	74,271 千円			5,475 千円
				課長	0.15 人
				係長	0.15 人
				職員	0.30 人

【Action】改善

課題	見直し内容
H23年度の評価結果を受けての課題	<p>環境ミュージアムを拠点として、市民の環境学習や活動のサポートを行うとともに、地域の環境リーダーとして活動を期待する環境サポーターの活動内容や実際に活動を行うメンバーの偏りが見られるため、活動のスキルアップや多様化、メンバーの充実を図ることが求められます。</p> <p>地域の環境リーダーを目指し、活動の充実化を図るため、 ○定期的な研修等の実施 ○環境ミュージアム・ガイドとの連携強化 ○地域等の要望に応じた館外活動「出張ミュージアム」の充実 などに取り組めます。 さらに、サポーター活動に多様な世代を取り込むための手法を検討・実施します。</p>

【Plan】計画

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	順調
	環境サポーター	環境ミュージアムを拠点として活動している、市民ボランティアである環境学習サポーターを地域における環境活動の推進を担う環境リーダーへと育成します。			
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由
	環境学習サポーターによる出張ミュージアム回数(単年度)				指標としている出張ミュージアムについては、昨年度及び目標値を下回ってはいますが、平成25年度から開始した環境ミュージアムの新たな企画イベントには多くの来館者が訪れ、サポーターとガイドとの連携を深めた環境学習体験に、好評を得ました。また、北九州エコマンス(10月)として実施した、シンボルイベントのエコライフステージへの出展や、国際会議でのワークショップ実施など、サポーターの取組みが、市民をはじめ、海外の方にも本市の環境力を発信する貴重な役割を果たしたため、順調としました。
	育成されたサポーターは、地域の環境リーダーとして、学校や市民センターなど地域に出かけて活動します。そのため、ミュージアム外の活動である「出張ミュージアムの回数」を指標としました。目標については、H21-23の3カ年の平均(97回)を基準としました。	99 回	97 回	83 回	
	(最終目標と目標年度)H24~28年度累積:485回	90 回		85.6 %	
(最終目標と目標年度)			%		

【Do】実施

活動計画	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	順調		
地域の環境学習・活動を推進する環境リーダーの育成を目指し、 ○環境に関する知見を深めるため、多様なテーマを取り扱い、専門家などを招いて学ぶ月例学習会の実施 ○サポーター同士や環境ミュージアム・ガイドとの連携強化による、活動のレベルアップ・多様化・拡大 ○環境イベントなどへの積極的な参加を通じた活動の発信 などに取り組めます。 また、サポーターに広い世代を取り込むため、まずは本市の新規採用職員によるボランティア活動の導入を検討します。					
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績 (達成率)	活動の状況 評価理由
	環境学習サポーター月例学習会参加者数				毎月の学習会等を通じて研鑽を積み、活動拠点の環境ミュージアムにおける活動が目標を上回っています。また、平成25年度から本市の新規採用職員約10名が参加し、活動が活性化されたこともふまえ、順調としました。
	出前講演を利用するなど、本市の施策等様々な分野について、サポーター会及び各サポーターの向学のための自主的な学習の場として機能しており、今後の活動にさらなる拡がりを持たせているため、その参加人数を指標としています。目標値は月平均30名の参加を見込んだものです。	295 人	360 人	347 人	
	環境学習サポーター館内活動延べ人数	2,520 人	2,200 人	2,538 人	
館内で、様々なエコ工作や環境実験などのアクティビティを通じて、来館者へ環境問題にかかる「気づき」を与える活動への参加者数で、人材活用を表す指標です。目標値は、一日平均7~8人の参加を見込んだものです。	2,488 人		115.4 %		

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	成果の状況	活動の状況
「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果)の分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 ※民間活力度の視点	成果指標として掲げている出張ミュージアムについては、昨年度及び目標値を下回ってはいますが、活動拠点である環境ミュージアムで新たに企画されたイベントをはじめ、北九州エコマンスの一環として開催されたESD(持続可能な開発のための教育)のアジア太平洋地域の国際会議におけるパートナーシップ及び会場におけるワークショップの実施など、サポーターの活動は、市民をはじめ、国内外へ本市の環境力を発信する大きな実績を残したため、成果は順調としました。また、活動指標としている月例学習会の参加者や、活動拠点の環境ミュージアムにおける活動が目標を上回るなど、本市の環境学習を担う一翼として成長していることから、活動は順調としました。今度も、活動の充実化を図り、地域の環境リーダーを育てるため、環境ミュージアムガイドやその他ボランティア・団体との協働、得意分野等を活かした活動の拡がりを目指します。	環境学習サポーター(現65名)の年間活動は、ボランティア(交通費程度の支給のみ)で行っていただいていること、活動の管理・運営については、現在指定管理により、既に民間活力を導入していることから、効率的に行われていると考えています。

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	環境学習課
課長名	東田
施策番号	
I - 3 - (3) - ②	
事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
コスト	(人件費備考)
事業費	25年度当初予算額 15,899 千円
	25年度執行額 13,496 千円
	(事業費備考)
人件費	目安の金額 8,475 千円
	課長 0.15 人
	係長 0.30 人
	職員 0.50 人

事業概要			
事業名	環境人財育成事業		
事業概要	あらゆる世代に対して環境学習・体験・協働の充実を図るとともに、専門的かつ実践的な知見を身につけた人材を育成することを目的としています。その中の主要事業「環境首都検定」は、世界の環境首都を目指す北九州市の取組や魅力を再発見し、実践的な環境行動につなげるきっかけづくりを行うものです。		
コスト	事業費	25年度当初予算額	25年度執行額
		15,899 千円	13,496 千円

【Action】改善			
課題	H23年度の評価結果を受けての課題	H23年度のジュニア編受検者は86人で、全受検者1879人の5%に満たない少数となりました。これは検定当日が日曜日であり、学校参加が難しかったためと考えられます。今後より多く受検してもらうためには受検のあり方を検討していく必要があります。	見直し内容
			学校受検が容易となるような受検制度の構築を進めていくとともに、教育委員会とも連携しPRIに努め、小学校受検の拡大に努めていきます。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	やや遅れ
	市民	検定の実施により、市民の環境への学習機会を増やし、環境意識のレベルアップや環境に関心を持つ市民の裾野を広げます。また、市民が北九州市の環境について精通することを目指します。			
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	上段: 23年度実績 下段: 24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由
	北九州市環境首都検定の受検者数(単年度)	1,879 人	3,000 人	2,141 人	受検者数は年々増加しています。ジュニア編については、小学校受検が増え、1,132人が受検しました。これはH23年度の10倍以上となります。しかし、総受検者数が伸び悩み、前年度実績は上回ったものの、H25年度の目標値には届かなかったため、やや遅れとしました。
	受検者数を増加させ、環境について自己啓発に励む市民の創出を目指し、検定受検者数を指標に設定しました。 (最終目標と目標年度) 平成28年度 5,500人	2,024 人		71.4 %	
	(最終目標と目標年度)			%	

活動計画	どうやって目的を達成するか	・企業や団体に対して、メールやチラシなどで広報を行い、イベントでもPRを行います。前回受検者や大学、教育委員会を通じた小学校への受検呼びかけなど、効果的なPRを実施します。 ・応援団制度により協力企業・団体をPRしたり、表彰制度により団体高得点者を表彰したりすることによって、団体受検の増加を目指します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	順調
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	上段: 23年度実績 下段: 24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由
	受検啓発・PRの実施回数	4 回	5 回	7 回	教育委員会を通じて小学校への受検呼びかけを行い、市民センター等でも目標を上回る啓発活動を行いました。その結果、団体受検数は減少したものの、小学校受検数が大幅に増加したため、活動の状況としては順調と評価しました。
	検定受検者数増加を目指し、イベント等において検定のPR活動を行います。(エコライフステージでのミニ検定実施、市民カレッジでの「環境首都検定合格講座」、市民センターでの「地域デビュー支援事業」等)	4 回		140.0 %	
	団体での受検数	105 団体	90 団体	69 団体	
	学校や企業、市民団体等、グループ受検することでの受検を推進し、受検者数の増加をめざします。	92 団体		76.7 %	

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点</p> <p>【経済性】(同成果を低コストで) 【効率性】(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点</p> <p>団体受検の増加を目指し、学校関係を中心に啓発やPR活動を行ってきました。その結果、小学校以外の団体受検は減少したものの小学校受検が大幅に増加し、総受検者数も前年を上回りました。啓発やPR活動について一定の成果を得たと分析しています。しかし、小学校以外の団体を含む一般受検が減少しているため、総受検者数は今年度目標に届いていません。今後は啓発やPR活動の機会を増やすなど、一般受検者も増加するよう工夫する必要があります。</p> <p>平成25年度より、受検受付や採点、受検票・成績表の発送など、大幅な業務委託を行い民間活力を導入しました。今後も検定の事前準備や当日の会場運営などをまとめて業務委託するなどして、より一層、経済性・効率性の向上を図っていきます。</p>

P D C Aチェックシート(平成 25 年度実績評価)

事業概要					担当局	環境局		
					担当課	環境学習課		
					課長名	東田		
事業名	ESD活動支援事業				施策番号			
					I - 3 - (3) - ③			
事業概要	持続可能な社会の構築を図るため、国連など世界規模で進められている「持続可能な開発のための教育(ESD)」を、北九州ESD協議会を中心に、市民、企業、大学等と連携しながら推進します。具体的には、あらゆる人々が地域等における様々な課題に気づき、つながり、既に実践している活動等にESDの視点を加えて、暮らしや社会のあり方等を変えていく人づくり・学びあいの場づくりを進めます。				事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()			
						コスト	25年度当初予算額	25年度執行額
		15,300 千円	13,804 千円			13,950 千円	係長 0.60 人 職員 0.60 人	(人件費備考)

【Action】改善		
課題	H23年度の評価結果を受けての課題	ESDの概念が広範で抽象的であることなどから、「アンケート調査」におけるESD認知度が目標に達していません。今後は、ESDの概念を分かりやすく普及するための工夫を行い、地域におけるESDの認知度を向上させるとともに、活動に参加する仕組みづくりが必要です。
見直し内容	これまでESDを認知していなかった市民が、新たにESDの考え方を認識し活動に参加できるよう、ESDの推進拠点RCEの一つとして、国連が進める「ESDの10年」の最終年会合をふまえたプレイベントの実施 ○地域におけるESD活動普及の鍵となる人材の育成 ○市内10大学の連携による「まちなかESDセンター」との連携した活動 などに取り組めます。	

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	市民	「持続可能な社会づくり」を担う人材を育むため、世界共通の課題である持続可能性の視点をもちながら、身近な地域等のさまざまな課題に取り組むESD活動の全市的な普及拡大を目指します。			
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由
	市民のESD活動の認識の向上と活動の普及	—	認識の向上と活動の普及	—	認知度のアンケート結果は、平成24年度:4.5%→平成25年度:5.1%と微増ながら上昇していますが、目標の半分程度という結果となりました。 しかし平成25年度は、翌年度に「ESDの10年」の最終年会合が開催されることをふまえ、 ○本市で開催した「アジア太平洋RCE地域会議」の、べ参加者数が900人 ○ESDコーディネーター研修に、地域活動の核となる市民センター館長等からの関心が高く、実践を始めた地域が誕生 ○「まなびとESDステーション」において学生を中心とした20を超える取組みが開始 など国内外への発信をはじめ、市民におけるESD活動が着実に広がってきていると捉えているため、順調としました。
	(最終目標と目標年度) 認識の向上と活動の普及	—	10.0 %	%	
	アンケート調査におけるESD認知度	4.1 %		5.1 %	
	活動を推進する上で、まずはESDについての認知度を高めるための取組みが重要であり、認知度の把握は不可欠であることから、「アンケート調査」内のESDについての認知度を指標として設定しました。	4.5 %		51.0 %	
	(最終目標と目標年度) 20% 平成26年度				

活動計画	どうやって目的を達成するか 2014年に提案国である日本で開催する「ESDの10年」の最終年会合に向けて、RCE地域として盛り上げるとともに、市民におけるESDへの理解と普及を図り、活動を一層活性化させるため、これまでの取組みに加え、 ○「ESDの10年」最終年会合に向けたプレイベントとして市制50周年の2013年に、本市で「アジア太平洋RCE会議」を開催 ○地域でESD活動を普及する中心的な役割を果たす「ESDコーディネーター」の育成 ○市内10大学連携による「まなびとESDステーション」との協働 などを行います。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック 順調		
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由
	活動団体登録数	72 団体	76 団体	75 団体	国内で行われる「ESDの10年」の最終年会合のプレイベントとして、市制50周年である平成25年に、アジア太平洋地域のRCEが集結する国際会議と一級公開の国際シンポジウムを開催し、国内外から好評を得ることができました。活動団体の登録数は、平成24年度の74団体から、75団体へと微増でしたが、協議会のアクションプランにもとづき、着実に活動を進めていること、国際会議等の企画・運営を通じて、パートナーシップの強化を図ることができ、平成24年度から引き続き、コーディネーターの育成講座を実施したことなどから、順調としました。
	本市のESD活動の中心となっているESD協議会への登録団体数を、活動の指標として設定しました。目標については、環境モデル都市地域推進協議会メンバー(約380団体)の2割程度の数字としています。	74 団体		98.7 %	
				%	
			%		

【Check】評価(分析)		
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	ESDの認知度については、ESDの概念が抽象的で分かりにくいことなどの理由から、アンケート市民意識調査における認知度が目標に達しませんでした。一方で、本市におけるアジア太平洋RCE地域会議の開催は、本市の取組みを世界に発信するとともに、国内外のRCEとの交流・パートナーシップの強化をはじめ、市民におけるESD活動の活性化への大きな後押しとなりました。さらに、市内10大学連携により平成25年3月にオープンした「まなびとESDステーション」における地域と協働の学生の取組みや、ESD活動の普及を担う「ESDコーディネーター」の育成など、これまでESDを認知していなかった市民が新たに認識し、活動に参加しやすい基盤が整えられました。このように市民におけるESD活動の広がりが認められ、認知度も毎年度微増ながらも増加しているため、活動・成果ともに順調としました。今後さらに多くの市民がESDを理解し、実践活動に導くための普及啓発を効果的に進めていく必要があります。
	【経済性】(同成果を低コストで) 【効率性】(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	「ESDの10年」の最終年会合に向けて、RCEの一つとして、従来からの活動に加え、国際会議の準備・運営等を通じ、国内外のネットワークの強化・連携事業の実施などを行うとともに、それを大きな機会としてESD普及啓発活動を進めることができました。また、ESD活動の普及の鍵となるESDコーディネーターの育成については、「市民活動団体等による環境未来都市推進支援事業」の補助金を活用してNPOと協働で実施することにより、相互の利点を活かした効率的効果的な取組みを行うことができました。

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

事業概要				担当局	環境局			
				担当課	環境国際戦略課			
事業名	環境国際協力推進事業			課長名	久保			
				施策番号		II - 3 - (4) - ②		
事業概要	途上国技術者を受け入れる国際研修や経験豊かな市内企業技術者等を諸外国都市に派遣し、現地で相手都市も主体的に関わった実践的な技術指導を実施します。また、国内外の関係機関と協働・連携した調査、情報収集や発信を行うとともに、各種都市間ネットワークを活用したプロジェクトを実施します。更には国際機関等と密に連携して、協力対象国や都市の「緑の成長」にも資する環境国際協力を目指すものです。							
コスト	事業費	25年度当初予算額	25年度執行額	(事業費備考)	人件費	目金の金額	課長 0.10 人	事業手法 <input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 () (人件費備考)
		25,000 千円	4,119 千円			6,650 千円	係長 0.10 人 職員 0.60 人	

【Action】改善

課題	H23年度の評価結果を受けての課題	平成23年度は、マレーシア・ハントワジャヤ市、中国・上海市、インドネシア・スラバヤ市において、環境国際協力事業を展開しました。平成24年度においては、マレーシア・ハントワジャヤ市、インドネシア・スラバヤ市、バリクパパン市、ブラジル・ミナスジェライス州において国際協力事業を展開しています。ODA予算が減少傾向ではありますが、積極的な活動を引き続き展開してまいります。	見直し内容	平成25年度においても、マレーシア・ハントワジャヤ市、インドネシア・スラバヤ市、バリクパパン市、西ヌサトゥンガラ州、ブラジル・ミナスジェライス州において事業を展開していく予定です。なお、事業費についてはODA予算など外部資金を活用し本市負担分を縮小しています。
----	-------------------	---	-------	--

【Plan】計画

【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	大変順調
代表的な成果指標	本市	国、国際機関等の補助事業を活用しながら、環境国際協力の実施を通じた地球環境保全、地球規模での持続可能な社会実現、北九州地域の活性化に資することにより、世界の環境首都の実現を目指します。			
	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由
	戦略的環境国際協力事業の件数(単年度)	3 件	4 件	5 件	平成25年度は5件の協力事業を実施しました。目標の4件を上回る達成状況のため評価を大変順調としております。 (協力事業案件) ・マレーシア・ハントワジャヤ特別市(廃棄物管理業務の効率化事業) ・インドネシア・バリクパパン市(環境学習プログラム開発事業) ・インドネシア・スラバヤ市(分散型排水処理施設整備事業) ・ブラジル・ミナスジェライス州(廃棄物管理業務の効率化事業) ・インドネシア・西ヌサトゥンガラ州(廃棄物管理業務の効率化事業)
	本市が有する都市間ネットワークを活用した戦略的な環境分野に関するプロジェクトを実施し、国際機関等と連携を密にして、協力対象国や都市の「緑の成長」にも資する環境国際協力を目指します。 (最終目標と目標年度)平成28年度までに年間事業数6件を目指します	4 件		125.0 %	
(最終目標と目標年度)				%	

活動計画	どうやって目的を達成するか	独立行政法人国際協力機構の草の根事業(地域提案型)および財団法人自治体国際化協会の自治体国際協力促進事業等を活用し、廃棄物分野や環境教育分野において事業を展開していきます。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	大変順調
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由
	事業実施に係る現地派遣回数	-	8 回	12 回	平成25年度は12回職員の現地派遣を行い、技術指導や現地協議を実施しました。目標を上回る達成状況のため評価を大変順調としております。
	国際協力事業の実施にあたり、技術指導、現地協議などのために職員を現地に派遣します。	-		150.0 %	
					%

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	国際協力事業の実施件数は5件を達成しました。また、個々の協力事業において、職員の現地派遣を12回行い、現地のニーズに応じた事業実施を行いました。そのため、成果の状況、活動の状況を大変順調としています。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点	独立行政法人国際協力機構の草の根事業(地域提案型)および財団法人自治体国際化協会の自治体国際協力促進事業を活用することで、本市の財政負担を軽減しています。

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

		担当局	環境局
		担当課	環境国際戦略課
		課長名	久保
事業名	アジアの環境人材育成拠点形成事業		施策番号
			II - 3 - (4) - ②
事業概要	アジアの途上国やその都市が自らの力で環境改善の取組を進めることができるよう、人材育成に向けてJICA等国の支援や連携により、実践的な国際環境研修事業を推進していくものです。 本市の環境国際協力の原点である環境人材育成は、「世界の環境首都」を目指す本市の取組の一貫であり、海外からの研修員を受け入れることにより、世界的規模で進んでいる環境問題解決の一助を担うとともに、現地の環境改善や海外諸都市とのネットワーク構築、ひいては環境国際ビジネスへの事業展開に繋がるものです。		■ 直営 ■ 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
			(人件費備考) 目安の金額 課長 0.10 人 係長 0.10 人 職員 0.30 人 (人件費備考)
コスト	25年度当初予算額	25年度執行額	
事業費	2,435 千円	1,345 千円	4,400 千円

【Action】改善			
課題	H23年度の評価結果を受けての課題	平成23年度においては、目標を超える431名の研修員を受け入れました。平成24年度においても(公財)北九州技術協力協会(KITA)や、(独)国際協力機構(JICA)と連携を図りながら研修員受入を推進しています。また、ODA予算が減少傾向であることから、本市の独自性をより強く打ち出し、研修誘致を積極的に展開していきます。	見直し内容 事業は順調に推移しており、引き続きKITAやJICAと連携を図りながら、事業を実施していきます。また、事業経費については縮小致しますが、時代の変遷に伴う新規研修プログラムの構築などを行うことで研修事業の魅力を高めていき、これまで以上に多くの研修員を受け入れていきます。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を) 本市	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) アジア地域の行政官を対象に研修を実施することにより、現地での環境改善において中心的な役割を果たす人材を育成するとともに、本市職員・関係機関職員の能力開発を行うことで、アジアの環境人材育成拠点を目指します。	成果の状況 代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	大変順調	
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方) アジアの環境人材育成のための研修員等の受講者数(単年度)	上段:23年度実績 下段:24年度実績 431 人	25年度目標 430 人	25年度実績(達成率) 993 人 230.9 %	成果の状況 評価理由 目標である430名を大きく上回る達成状況のため、成果の状況を大変順調としました。
	(最終目標と目標年度)H24~H28年度 2,200人受入	900 人			
	(最終目標と目標年度)			%	

活動計画	どうやって目的を達成するか 平成24年度から平成28年度までの5年間に、2,200人の研修員を受け入れるため、国内外での研修誘致活動を行います。	活動の状況 活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	大変順調		
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明) 国内外での北九州市への研修誘致	上段:23年度実績 下段:24年度実績 -	25年度目標 3 回	25年度実績(達成率) 5 回 166.7 %	活動の状況 評価理由 目標の3回を上回る達成状況のため、評価を大変順調としました。
	市職員を国内外に派遣し、公害を克服した本市の技術、ノウハウや環境政策のPR、研修誘致を行います。	4 回			
				%	

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理 【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	研修員受入数は、目標である430名を達成しました。環境未来都市、グリーンアジア国際戦略総合特区やOECDグリーンシティ・プログラムのグリーン成長都市への選定などにより、本市の環境に対する取組が国内外から注目を集めたことや、誘致活動を積極的に実施した結果と考えており、成果の状況、活動の状況ともに大変順調としています。
「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点	(公財)北九州技術協力協会(KITA)や、(独)国際協力機構(JICA)などと連携することで、コストの軽減を図りました。また、国内外への出張において本市の環境政策のPRを行う際に、本市への研修誘致を行うことで、コストをかけずに誘致活動を実施しました。

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

				担当局	環境局			
				担当課	業務課			
				課長名	楢木野			
事業名	まち美化等啓発事業				施策番号			
					Ⅲ - 1 - (1) - ③			
事業概要	北九州市空き缶等の散乱の防止に関する条例(まち美化条例)に基づき、ポイ捨てのない清潔で美しいまちづくりを推進するため、市民や企業、ボランティア団体等と連携し、春の「クリーン北九州」まち美化キャンペーン、秋の「市民いっせいまち美化の日」などのまち美化事業を実施し、市民の環境美化に対する関心及びモラル・マナーの向上を図り、「世界の環境首都」に相応しい清潔で美しいまちづくりを推進します。				事業手法 <input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()			
コスト	事業費	25年度当初予算額	25年度執行額	(事業費備考)	人件費	目金の金額	課長	0.05 人
		3,092 千円	2,451 千円			3,075 千円	係長	0.10 人
							職員	0.20 人

【Action】改善			
課題	H23年度の評価結果を受けての課題	成果指標は、年々目標数値に近づいており、ほぼ目標どおりの成果を得ることができています。経済性、効率性の観点から、市民、団体等への広報や清掃申込みの依頼文・チラシの配布等については、コスト削減が可能と思われます。	見直し内容 インターネットでの広報や清掃申請を利用しやすくし、依頼文・チラシについても効率的な配布を行うことで、大幅縮小の予算でもより多くの方々に清掃に参加していただけるよう取り組んでいきます。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	順調
	市民、企業、ボランティア団体等	ポイ捨てのない清潔で美しいまちづくりを推進するため、市民や企業、ボランティア団体等と連携し、清掃活動等のまち美化事業を実施することで、まち美化に対する意識の高揚・定着を図っていきます。		代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由
	まち美化ボランティア清掃参加者数(単年度)	119,049 人	125,000 人	124,185 人	平成25年度は、「クリーン北九州」まち美化キャンペーン(春)において8会場中、5会場が雨天のため中止となったが、「市民いっせいまち美化の日」(秋)には多くの市民が参加し、市民のまち美化意識の高揚へと繋がることができました。
	まち美化意識の高揚を図るため、「クリーン北九州」まち美化キャンペーン(春)、「市民いっせいまち美化の日」(秋)を設定し、市内でのまち美化清掃や啓発行事を行い、参加者の増加に努めます。	122,152 人		99.3 %	
	(最終目標と目標年度) 125,000人(H26年度)				
アンケート調査における地域でのまち美化清掃実行の割合	54 %	60 %	54 %		
市民のまち美化意識の定着を図り、アンケート調査における地域でのまち美化清掃が「常に実行」及び「時々実行」の回答の割合が増えるように努めます。	58 %			90.0 %	
(最終目標と目標年度) 60%(H26年度)					

活動計画	どうやって目的を達成するか	市民・団体がきれいな環境づくり・モラルマナーの向上に関心を高めることを目的に、いっせいまち美化を北九州市衛生総連合会と共同で呼びかけ清掃参加者数の増加に努めます。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	順調
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由
	まち美化キャンペーン(春)のボランティア団体への呼びかけ数	151 団体	170 団体	174 団体	多くの市民が参加し、市民のまち美化意識の高揚へと繋がりました。
	「クリーン北九州」まち美化キャンペーン(春)において、キャンペーン期間(5/30~6/30)にボランティア清掃を呼びかけている登録団体数。	172 団体		102.4 %	
	チラシ作成枚数	108,000 枚	105,000 枚	106,000 枚	
「クリーン北九州」まち美化キャンペーン(春)と「市民いっせいまち美化の日(秋)」の案内、啓発、参加申込を記載したチラシの作成枚数。	106,000 枚		101.0 %		

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点</p> <p>北九州市衛生総連合会と共催することで、より市民・自治会(衛生協会)とのつながりが強くなり、まち美化に対する関心を持続的に高めることが可能になっています。</p> <p>【経済性】(同成果を低コストで) 【効率性】(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点</p> <p>現時点で、十分にコストを削減していますが、市民、団体等への広報・PRの方法は依頼文・チラシの配布等が主体のため、インターネットでの広報及び清掃申請を促すことで、コスト削減が可能と思われます。</p>

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

				担当局	環境局
				担当課	環境未来都市推進室
				課長名	山本
事業概要				施策番号	
				IV - 1 - (1) - ④	
事業名	新規環境産業創出事業(北九州エコプレミアム産業創造事業)				
事業概要	市内で生産されている環境配慮型製品や環境負荷低減に寄与するサービスを「北九州エコプレミアム」として選定し、広くPRを行うことにより、販売促進を支援します。				■ 直営 □ 補助金 □ 全部委託 □ 負担金 □ 一部委託 □ 指定管理 □ その他 ()
コスト	25年度当初予算額	25年度執行額	(事業費備考)	人件費	目金の金額
	3,938 千円	2,194 千円			課長 0.05 人 係長 0.30 人 職員 0.30 人

【Action】改善

課題	H23年度の評価結果を受けての課題	H23年度は新たに13件を選定しましたが、既選定製品のうち3件を生産中止等で削除しました。しかしながら、いままでに178件を選定し、目標に向けて順調に推移しています。今後も、北九州エコプレミアムの知名度向上と選定企業の営業活動促進のためPR活動を行います。	見直し内容	引き続き、環境見本市「エコテクノ」等への出展のほか、エコタウンセンターや消費生活センターでの常設展示、環境産業推進会議でのチラシ配布等、新たな経費を使うことなく効果的なPR活動を行います。また、産業経済局等と相互連携を図り、販売促進につながるようなPR策の検討を行います。
----	-------------------	--	-------	--

【Plan】計画

【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	順調
	市内で製造される製品や、市内で提供されるサービス	環境への負荷が低いことを新しい付加価値として捉えた製品や技術、産業活動を「エコプレミアム」と定義し、北九州発のエコプレミアムを選定しています。選定された製品・サービスは北九州市がPRのバックアップを行い、販売促進につながることを目的としています。				
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由	
	エコプレミアム選定件数(単年度)	13 件	10 件	10 件	年度目標(10件)に対する達成率は100%であり、順調に選定件数を伸ばしている。	
	選定された製品・サービスが、この事業によりどれだけ販売促進につながったかを具体的な数値で表すことは情報が得られないため、選定件数を指標としています。	6 件		100.0 %		
	(最終目標と目標年度)累計200件選定(H27年度)					
(最終目標と目標年度)			%			

活動計画	どうやって目的を達成するか	・200件選定(平成27年度目標)に向けて市内企業の掘り起こしを行っていきます。 ・紹介カタログを作成するとともに、西日本総合展示場で開催する環境見本市「エコテクノ」に出展しPRします。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	順調
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績 (達成率)	活動の状況 評価理由
	北九州エコプレミアムのPR活動	—	—	—	「エコテクノ」に出展すると共に、「九州エコフェア2013」にも出展し、北九州エコプレミアム選定企業の製品・サービス紹介を行った。
	200件選定(平成27年度)を目標として、市内企業の掘り起こしを行います。また、環境見本市「エコテクノ」への出展、エコタウンセンターでの常設展示や環境産業推進会議でのチラシ配布等、様々なPR活動を行います。	—		%	
			%		

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、 外部要因などの視点	活動や成果は予定どおり目標を上回るペースで推移しており、平成25年度までにエコプロダクツ146件、エコサービス35件、合計181件選定しています。引き続き、北九州エコプレミアムの知名度向上と選定企業の営業活動促進のためPR活動を行い、また、販売促進につながるようなエコプレミアム製品販路開拓事業も併せて行います。なお、産業経済局と連携を図りながら事業を行っています。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	事業開始当初は、選定に関わる業務をすべて委託していましたが、平成19年度から委託をやめ、職員が事務を行っており、委託料のコストは削減されています。

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

				担当局	環境局	
				担当課	環境未来都市推進室	
				課長名	田原	
事業名	北九州スマートコミュニティ創造事業				施策番号	
					V - 1 - (4) - ①	
事業概要	「北九州スマートコミュニティ創造事業」は、産学官民の英知と志を結集し、基幹システムとの協調の下、地域エネルギーマネジメントのあるべき姿を具体化し、「ライフスタイル」「ビジネススタイル」、さらには、市のまちづくりを変革することで、低炭素社会のあるべき社会構造を構築するものです。				事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()	
コスト	25年度当初予算額	25年度執行額	(事業費備考)	人件費	目金の金額	課長 1.00 人
	278,165 千円	100,084 千円			36,500 千円	係長 1.00 人 職員 2.00 人

【Action】改善

課題	H23年度の評価結果を受けての課題	平成23年度は、参画企業による地域節電所の設置、スマートメーターの導入、各エネルギーマネジメントシステムの導入やダイナミックプライシングの制度設計など、本事業を推進するにあたって必要不可欠なハード整備や制度設計を行いました。一方、今後は事業展開を見据えた計画作りに着手する必要があります。	見直し内容	左記の課題を踏まえ、平成25年度は前年度に加えて、スマートメータ・宅内表示器を活用したビジネスモデル調査(垂直展開)や実証の成果を他地域に展開する可能性調査(水平展開)にも取組みます。事業全体としては、実証事業の成果の展開に向けた調査事業は強化しますが、その他の事務の見直し等の努力を行い、予算は縮小します。
----	-------------------	--	-------	--

【Plan】計画 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)			成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	順調
	八幡東区東田地区を実証地域として社会インフラを含むコミュニティ	スマートグリッドを核として、ライフスタイル、ビジネススタイルなどの変革を目指します。こうした取組みを通じて、国内外に先駆けCO2の50%削減と豊かな市民生活が両立した社会を実現するとともに、北九州発のグリーンイノベーションを起こし、国内外にビジネススペースで技術移転することで、地域経済の成長につなげます。					
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	成果の状況評価理由		
	地域社会が参加するエネルギーコミュニティの実現	—	単年度の目標設定はありません。	— %	単年度の成果指標は設定していませんが、エネルギーマネジメントシステムやダイナミックプライシング実証などが順調に進んでいるため。		
	平成26年度に市内一般街区と比較して、約50%のCO2削減を目指します。 (最終目標と目標年度) 26年度末50%CO2削減	—					
	地域経済の浮揚	—	単年度の目標設定はありません。	— %			
関連製品市内企業売上や雇用の創出を目指します。 (最終目標と目標年度)平成27年度末 関連製品市内企業売上約70億円、雇用70人の創出	—						

活動計画	どうやって目的を達成するか	平成26年度の最終年度に向け、地域エネルギーマネジメントシステムと各需要家のエネルギーマネジメントシステムを連携させた実証を完了するため、電力の需給状況に応じて電気料金を変動させるダイナミックプライシングやインセンティブプログラムを組み合わせ、実運用に近い実証を行います。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	順調
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	プロジェクト着手数	38 事業	23 事業	23 事業	事業が予定どおり進んでいるため
	平成25年度は、地域エネルギーマネジメントシステム、ビルエネルギーマネジメントシステムなど、23の個別プロジェクトの着手数を指標と設定しました。	28 事業		100.0 %	
			%		

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	活動の状況については、事業が予定どおり進んでいるため、順調としました。成果の状況については、毎年度推測することが困難です。平成25年度は地域エネルギーマネジメントシステムと各需要家のエネルギーマネジメントシステムの技術実証、ダイナミックプライシングの社会実証などを行ったことから、順調としました。
	【経済性】(同成果を低コストで) 【効率性】(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点	本事業は、本市及び地元企業などで構成する「北九州スマートコミュニティ創造協議会」が実証主体となって事業を推進しています。この協議会が国の「次世代エネルギー・社会システム実証事業」に選定されており、国からの補助により総事業費に対する市の負担は大幅に縮小されています。

P D C Aチェックシート(平成 25 年度実績評価)

		担当局	環境局					
		担当課	環境未来都市推進室					
		課長名	平石					
事業名	新エネルギー等設備導入支援事業			施策番号	V - 1 - (4) - ②			
				事業概要	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()			
コスト	事業費	25年度当初予算額	25年度執行額	(事業費備考)	人件費	目金の金額	課長 0.05 人	(人件費備考)
		10,500 千円	10,500 千円			3,825 千円	係長 0.10 人	
							職員 0.30 人	

【Action】改善			
課題	H23年度の評価結果を受けての課題	平成23年度は、住宅用太陽光、屋上緑化の助成を実施。家庭用燃料電池(エネファーム)設置補助事業は平成24年度より開始したため、平成23年度評価無し	見直し内容

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	大変順調
	市民	新エネルギー等設備設置の補助事業を活用し、市内家庭部門の地球温暖化防止を進めます。市民への意識啓発を行い、市民一人一人が地球温暖化防止にむけて行動するような状態を目指します。			
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由
	家庭での地球温暖化防止のための市民意識向上	-	-	平成26年度にアンケート実施予定	補助金交付者に対し、稼働状況報告(設置翌年度から1年間)などを実施することで、効果の見える化に取り組んでいます。平成24年度の補助事業開始後、本市での導入台数は、平成23年度81台、平成24年度243台、平成25年度353台(西部ガス調べ)であり、補助金が普及支援につながっていることが考えられます。さらに、導入件数が年度ごとに増加していることから、自立的な普及につながり始めていると考えられます。
	補助金交付者を対象としたエネファームの稼働状況報告により、市民一人一人のCO2排出量削減を意識した行動を促すとともに意識調査を実施します。	-	-	- %	
	(最終目標と目標年度)				
(最終目標と目標年度)			%		

活動計画	どうやって目的を達成するか	家庭用燃料電池(エネファーム)の導入に対する補助制度を実施します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	大変順調
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由
	家庭用燃料電池(エネファーム)導入件数(市が補助を行ったもの)	-	150 件	150 件	上限として150件としていましたが、152件の応募があったため抽選を行い、150件の交付決定を行いました。平成24年度の交付者数の約2倍であり、活動指標としては、大変順調となります。
	地球温暖化対策を推進していくために、温室効果ガス削減につながる家庭用燃料電池の導入を補助金交付により推進し、その導入件数を把握します。※目標値は、前年度実績に補助予定分の導入量を加えたものです。	77 件		100.0 %	
				%	
			%		

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点</p> <p>活動の状況については、エネファームの補助事業としては大変順調です。また、補助事業を通じた稼働状況報告の実施により、市民の意識向上を目指した取り組みについても実施しています。また、本市ではエネファームの自立的設置も進み始めており、成果としても大変順調です。</p> <p>【経済性】(同成果を低コストで) 【効率性】(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点</p> <p>補助事業は、本市内でのエネファーム導入につながっているため、設置工事などによる直接的経済効果が得られます。また、補助金交付者の稼働状況報告の実施により、PR費用をかけずに省エネ意識向上を図っています。業務の経済性については、設置コストに合わせて年度毎に補助金額の見直しを行っています。さらに、建築都市局すまい向上支援課が実施するエコリフォーム助成と共同で業務委託を行い、受付審査業務の効率化を図っています。</p>

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

事業概要						担当局	環境局
						担当課	境未来都市推進室
事業名 地域エネルギー政策推進事業						課長名	平石
						施策番号	
事業概要 東日本大震災を契機とした電力不足・電気料金値上げの問題を受け、市民生活・産業活動といった地域を支える観点から、低炭素・安定・安価なエネルギーを地域に供給することを目指し、本市の新成長戦略の主要プロジェクトとして「北九州市地域エネルギー拠点化推進事業」に取り組んでいます。						事業手法 <input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (事業者が主体で取組む)	
コスト	事業費	25年度当初予算額 100,000 千円	25年度執行額 91,707 千円	(事業費備考)	人件費	目安の金額 30,250 千円	課長 0.50 人 係長 1.40 人 職員 1.40 人
	(人件費備考)						

【Action】改善

課題	H23年度の評価結果を受けての課題 H24スタートのため、H23の結果なし	見直し内容	—
----	--	-------	---

【Plan】計画

【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を) 市内事業者	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 市民生活・産業活動といった地域を支える観点から、低炭素・安定・安価なエネルギーを地域(市内事業者)に供給することを目指しています。	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	順調
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由
	地域エネルギー会社の設立	—	会議体の意見も参考にしながら更なる検討	— %	
	当事業の中核である「地域エネルギー会社」を設立し、市内の各種発電から電気を購入・市内事業者への安定・安価な電気を供給します。 (最終目標と目標年度)平成27年度設立	検討	—	— %	
	火力発電・洋上風力発電の立地 低炭素・安定・安価な電気を地域エネルギー会社へ供給するため、火力発電や洋上風力発電を立地します。 (最終目標と目標年度)火力発電・風力発電:平成28年から随時	検討	—	— %	

活動計画	どうやって目的を達成するか 当事業の実現に向けて、市内事業者と意見交換を通じて、事業の周知や事業者情報の収集を行います。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	順調	
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績 (達成率)	活動の状況 評価理由
	市内企業との協議	—	20 件	23 件	
	市内事業者と協議を行い、事業の周知や市内事業者の情報収集を行います。	31 件	—	115.0 %	
	—	—	—	%	

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	活動状況については、計画通りに進行しており、順調。市内事業者との協議、会議体での議論を通じてニーズを把握でき、具体化を受けて道筋がたつた。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点	通常であればコンサルに委託し収集する情報が、会議体を構成することでコストかけずより有益な情報を得ることができた。

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	環境学習課
課長名	東田
施策番号	VI - 1 - (1) - ①
事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
コスト	(人件費備考) 係長 0.25 人 職員 0.80 人

事業概要			
事業名	市民環境力支援事業		
事業概要	(1)北九州エコライフステージ事業・・・各地域が主体となって実施する「地域・テーマ別事業」、環境情報の交流の場・発信の場づくりを推進するポータルサイトの運営、その取組みの集大成として、市民・企業・NPO・行政等が集結し、日頃の環境活動やエコライフを発表・提案する環境イベントの開催等を行います。 (2)環境モデル都市地域推進会議登録団体支援事業・・・市民団体、NPO、事業者等が行う積極的な取組みを支援し、環境モデル都市を推進する活動の活発化を目指します。		
コスト	25年度当初予算額 22,950 千円	25年度執行額 20,410 千円	(事業費備考) 平成26年度より環境モデル都市地域推進会議登録団体支援事業を同予算に統合。
人件費	10,225 千円	課長 0.15 人	

【Action】改善	
課題	H23年度の評価結果を受けての課題 ・環境未来都市を目指す本市において、エコライフステージのメインイベントや年間の活動を通じ、さらなる市民・企業・行政等の交流によるネットワークの拡大と新たな取組みの創出・展開が求められます。 ・平成19年度から開始した「菜の花プロジェクト」は、菜の花を通じて資源循環を理解する、市民が気軽に取組むことができる活動である一方で、活動への補助申請や菜種の回収件数が伸び悩んでおり、一定の団体による取組みに限られている傾向にあります。
見直し内容	・活動団体等の相互交流や取組みの発信を進め、活動参加者数の拡大を図るため、専用ポータルサイトにおける情報発信力や活動のPR支援を強化します。 ・「菜の花プロジェクト推進事業」のあり方を見直し、活動する市民にとって活用しやすい支援制度に改善します。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を) 市民	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 一人ひとりが楽しみながら環境活動に参加する仕組みをはじめ、実践や交流を重ねるための情報交流の場・発信の場づくりに取組み、さらなる取組を産み出すことにより、「市民環境力」の持続的な発展を目指します。	成果の状況 代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	大変順調	
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方) エコライフステージ参加者数(単年度)	上段:23年度実績 下段:24年度実績 73.9 万人 142.4 万人	25年度目標 74 万人以上	25年度実績(達成率) 166.2 万人 224.6 %	成果の状況評価理由 過去最高の参加者数を記録し、目標値である74万人を大きく達成したため大変順調と考えています。
	参加者数とは、各地域が主体となって実施される「地域・テーマ別事業」の参加者数と、シンボル事業「エコライフステージ」(市民・企業・NPO・行政等が集結し、日ごろの環境活動やエコライフを提案するイベント)の来場者数の合計数です。市民の環境活動への参加が市民の環境力につながると考え、設定しました。 (最終目標と目標年度)74万人以上(平成28年度)				
	市民・企業・行政等の交流によるネットワーク構築と拡大 「市民環境力」を強化するための情報交流の場・発信の場づくりを推進します。具体的には、環境に配慮したイベント運営の実施、環境をテーマとしたポータルサイトの運営・効果的かつタイムリーな情報発信を行います。 (最終目標と目標年度) 市民・企業・行政等の交流によるネットワーク構築と拡大	-	市民・企業・行政等の交流によるネットワーク構築と拡大を目指します。	-	
				%	

活動計画	どうやって目的を達成するか ・環境情報・イベントをはじめ、活動団体等の取組み等の効果的かつ積極的な受発信などを通じ、地域や民間団体等が環境に対する意識を高めることにより、自ら企画・実施する環境活動の増加を目指します。 ・菜の花を通じた環境学習に関する取組みを、「環境モデル都市地域推進会議登録団体支援事業」に統合し、制度の簡素化を図るとともに、モデル都市の実現を促進する環境活動として一体的に推進します。	活動の状況 活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	大変順調		
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明) エコライフステージ行事数	上段:23年度実績 下段:24年度実績 189 行事 191 行事	25年度目標 195 行事	25年度実績(達成率) 271 行事 139.0 %	活動の状況評価理由 過去最高の行事数を記録し、目標値である195行事を大きく達成したため大変順調と考えています。
	行事数とは、各地域が主体となって実施される「地域・テーマ別事業」及びシンボル事業「エコライフステージ」(市民・企業・NPO・行政等が集結し、日ごろの環境活動やエコライフを提案する環境イベント)の行事合計数です。地域で行われている環境活動の行事数増加が市民の環境力につながると考え、設定しました。				
				%	

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理 【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点	「シンボルイベント」は、同時開催イベントや周辺施設との連携により年々広がりを見せるとともに、「地域・テーマ別事業」も、本市が目指す民間団体の企画によるイベントの充実などにより、平成25年度の参加者数は過去最高を記録したため大変順調と考えます。また、エコマンスの一環として他イベントと一体的に広報PRを行ったことも、参加者数増に貢献したと考えます。 本事業は、主に市の負担金と協賛金で成り立っており、事業実施にあたって、毎年、コストを見直すとともに、協賛金等の収入の増加に努めています。今後もより一層、効率的・経済的な運営に取組みます。

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

事業概要						担当局	環境局
						担当課	循環社会推進課
事業名 北九州市民環境パスポート事業						課長名	敷田
						施策番号	
事業概要 レジ袋発生抑制(リデュース)を図るとともに、市民に楽しみながら環境活動に参加できるきっかけを提供するため、買物の際に参加店でレジ袋を断るとポイントシールがもらえ、20ポイント貯まると参加店で50円の割引券として利用できる「カンパスシール事業」を実施します。						事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()	(人件費備考)

【Action】改善			
課題	H23年度の評価結果を受けての課題 平成26年度末で終了予定としているカンパスシール事業について、事業終了後どのような形でこの成果を継続、向上できるか検討します。	見直し内容	カンパスシール事業終了後について、有識者や関係団体で構成する「北九州市民環境パスポート運営協議会」において、多数の市民、事業者へレジ袋削減の取組んでいただけたような制度を検討します。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	市民	レジ袋発生抑制(リデュース)を図るとともに、市民に楽しみながら環境活動に参加できるきっかけを提供することにより、家庭ごみの減量化の推進を図ります。			大変順調
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由
	カンパスシール等によるレジ袋お断り率(単年度)	23.9 %	27.0 %	29.3 %	カンパスシール事業に参加していた事業者のうち、レジ袋削減に向けた独自の対策(レジ袋有料化やポイント制)に移行してきた事業者が増え、市民においてもマイバッグ持参が定着してきたためと考えます。
	レジ袋のリデュースによるCO2削減効果に結びつくとともに、市民の身近な環境活動への参加状況を表す指標とします。 (最終目標と目標年度)各店舗の独自のサービス(ポイント加算や有料化)を含んだお断り率としてH26年度に27%	23.9 %		108.5 %	
	(最終目標と目標年度)			%	

活動計画	どうやって目的を達成するか 継続して積極的な広報活動を行い、市民の環境活動への参加を働きかけることにより、平成26年度までに各事業者で独自のサービス(ポイント加算や有料化)を含めたお断り率として27%を目指して取り組んでいきます。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	順調	
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由
	広報活動の実施	9 回	目標設定は ありません	11 回	市政だよりや新聞広告、ポスター、チラシやホームページなどあらゆる広報媒体を用いて広報活動を実施しました。
	市民の環境活動への参加を働きかけるために、積極的な広報活動を行います。	11 回		%	
				%	

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点</p> <p>事業開始時は、9.5%だったレジ袋お断り率は、目標の27%を超えて推移しています。カンパスシール参加の事業者において、独自制度の導入が進んでおり、レジ袋削減を目的としたカンパスシール事業については、一定の成果をあげていると考えます。</p> <p>「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点</p> <p>カンパスシール事業は、参加店舗のシール購入代金を原資にしており、本市が担う部分は運営・参画支援の部分であるため、経済性・効率性は高いと考えます。</p>

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

				担当局	環境局	
				担当課	循環社会推進課	
				課長名	敷田	
事業名	古紙リサイクル推進事業				施策番号	
					VI - 1 - (1) - ②	
事業概要	一般廃棄物の減量化・資源化促進のため、回収量に応じた奨励金の支給や、古紙回収用保管庫の貸与などを通じ、町内会等の市民団体による古紙の集団資源回収活動を支援します。				<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (奨励金)	
					事業費 25年度当初予算額 25年度執行額 (事業費備考)	
コスト	271,776 千円	248,865 千円		2,750 千円	(人件費備考)	

【Action】改善			
課題	H23年度の評価結果を受けての課題 家庭ごみの中に雑がみなどの古紙が約15%含まれている現状を踏まえ、これらの分別回収を促進するため、周知・啓発の強化を行う必要があります。	見直し内容	古紙回収の促進により家庭ごみの減量化を目指すとともに、回収活動を通じた奨励金の支給により地域活動の活性化を図ります。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を) 古紙回収量	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 古紙の集団資源回収の支援を通じ、家庭ごみの約15%を占める古紙の減量化・資源化を図るとともに、奨励金の支給による地域活動の活性化を図ります。	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	大変順調
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由
	古紙の年間回収量の増加(単年度)	29,106 トン	30,500 トン	27,784 トン	スーパーでの店頭回収など古紙回収機会の多様化等により、集団資源回収による古紙回収量は減少したが、古紙回収に取り組むまちづくり協議会や回収団体は増加しています。 小売店舗店頭回収量2,663トン 集団資源回収量 27,784トン 合計回収量 30,447トン
	平成23年度に策定した循環型社会形成推進基本計画に掲げたりサイクル率35%以上を目指すため、平成32年度までに1人あたりの古紙回収量の10%増加(対平成21年比)を目指します。	28,708 トン		91.1 %	
	(最終目標と目標年度) 1人あたり10%回収量の増加(H32年度)	123 団体	136 団体	130 団体	
古紙回収に取り組むまちづくり協議会数	128 団体	95.6 %			
未回収地域の解消を図るため、古紙回収に取り組むまちづくり協議会の増加を目指します。					
(最終目標と目標年度) 全136団体の参加(目標年度の設定なし)					

活動計画	どうやって目的を達成するか ・市制50周年記念事業として市民いっせい雑がみ回収グランプリを行い、雑がみの分別回収および古紙回収全体の周知・啓発を行います。 ・未回収地域の解消を図り古紙回収量の増加を目指すため、未回収地域のまちづくり協議会に対して、積極的に集団資源回収への参加を呼びかけます。また、かえるプレスへの掲載や出前講座、古紙リサイクルバスツアー等を通じて古紙回収についての周知を行います。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	大変順調	
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由
	未登録団体への個別訪問件数	-	8 団体 (訪問件数)	8 団体	市民いっせい雑がみ回収グランプリで1ヶ月に約100トン(昨年年間回収量1.2トン)の雑がみを回収しました。また、広報活動やまちづくり協議会への個別回収等を通じて、古紙回収の周知・啓発を積極的に行いました。
	集団資源回収に未参加のまちづくり協議会に対して、個別に訪問説明し、登録を促します。	13 団体		100.0 %	
	広報活動の実施	4 回	単年度目標設定なし	20 回	
市HPやかえるプレスへの掲載、出前講演等で周知・啓発を行い、更なる協力を呼びかけます。	16 回	%			

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点</p> <p>スーパー等での店頭回収が増加などの影響により、集団資源回収量は微減となっていますが、家庭ごみの減量化に大きく貢献しており、奨励金は地域コミュニティの活性化に寄与していることから、引き続き啓発や周知を行うことにより、回収量の増加に向けた取組みを進めていきます。</p> <p>【経済性】(同成果を低コストで) 【効率性】(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点</p> <p>行政回収よりも低コストで、団体は回収業者と自由に契約ができるため利便性が高く、奨励金は町内会等の貴重な活動資金となっていることから、地域コミュニティの活性化を図る上で、大きな役割を担っています。</p>

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

		担当局	環境局				
		担当課	循環社会推進課				
		課長名	敷田				
事業名	地域特性型(メニュー選択方式)市民環境活動推進事業			施策番号			
				VI - 1 - (1) - ③			
事業概要	地域団体等の自主的な活動により回収される家庭から排出された剪定枝及び廃食用油について、収集運搬作業及びリサイクル処理を側面的に支援することにより、循環型社会に向けたリサイクルの推進、ならびに地域団体等による自主的な環境活動の拡大及び地域コミュニティの活性化を図ります。			<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他			
				()			
コスト	25年度当初予算額	25年度執行額	(事業費備考)	人件費	目金の金額	課長	人
	10,464 千円	10,220 千円			11,125 千円	係長	0.25 人 職員 1.15 人

【Action】改善			
課題	H23年度の評価結果を受けての課題 剪定枝については、回収団体の増加に伴い経費が増加する可能性があります。 廃食用油については、約30カ所の民間スーパー等で廃食用油を回収しているなど、地域における状況が大きく変化していることから、事業内容の検討を行う必要があります。	見直し内容	剪定枝については、複数の団体の回収日を同一日にする等作業の効率化を図ることで、事業費を削減し、引き続き剪定枝のリサイクル支援を行います。 廃食用油については、民間事業者独自の回収体制整備状況と市民の利便性を考慮した、廃食用油の回収拠点の整備を図ります。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	順調
	地域団体	北九州市循環型社会形成推進基本計画に掲げている「市民等各団体が主体的・協動的に3R・適正処理に取り組むことに通じた持続可能な都市モデル」を目指すため、地域団体が自主的に行う環境活動を推進します。			
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	剪定枝、廃食用油の回収及びリサイクル(単年度)	剪定枝 159.17t 廃食用油 6.298ℓ	単年度の目標設定はありません	剪定枝 174.74t 廃食用油 6.497ℓ	剪定枝及び廃食用油ともに回収量が増加しました。
	地域団体等の自主的な活動により回収される家庭から排出された剪定枝及び廃食用油について、収集運搬作業及びリサイクル処理を側面的に支援することにより、家庭ごみ量の減量化及びリサイクル率の向上を目指します。 (最終目標と目標年度) H32年度に家庭ごみ量の7%削減(対21年度比)及びリサイクル率35%以上。	剪定枝 163.04t 廃食用油 6.152ℓ		— %	
	3Rの意識の醸成		3Rの意識醸成を図ります	— %	
地域が自主的に取り組むリサイクル活動により、3Rの意識醸成を行い、市民による環境活動を推進します。 (最終目標と目標年度) 3Rの意識醸成			— %		

活動計画	どうやって目的を達成するか 家庭から排出された剪定枝及び廃食用油を民間の委託業者を活用し、回収、リサイクル処理を行います。また、市民が参加しやすい体制の整備を図るとともに、剪定枝、廃食用油リサイクルを周知するため、広報活動を行います。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	順調	
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	広報活動の実施	4 回	目標設定はありません	12 回	広報活動を積極的にを行い、剪定枝の回収団体が、前年度より2団体増加しました。
	出前講演やちらし等の配布による広報活動を実施します。	10 回		%	
				%	
			%		

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点</p> <p>活動は予定通り行い、剪定枝の回収について、実施団体が新規に2団体増加しました。また、地域団体が協力して回収を行うことで、地域コミュニティの活性化に繋がりました。剪定枝や廃食用油がリサイクルされることにより、ごみ焼却量の削減に繋がるとともに、循環型社会の推進に寄与していると考えます。</p> <p>【経済性】(同成果を低コストで) 【効率性】(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点</p> <p>地域が自主的に取り組むリサイクル活動であり、市民環境力による3R活動を推進する上で必要と考えます。経費の主な用途は、回収と処理費用ですが、回収業務と処理業務を一括契約することにより、コスト削減に努めています。</p>

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	環境学習課
課長名	東田
施策番号	
VI - 1 - (2) - ①	
事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
コスト	25年度当初予算額 22,950 千円 25年度執行額 20,410 千円 (事業費備考) 平成26年度より環境モデル都市地域推進会議登録団体支援事業を同予算に統合。 目金の金額 10,225 千円 課長 0.15 人 係長 0.25 人 職員 0.80 人 (人件費備考)

事業概要	
事業名	市民環境力支援事業
事業概要	(1)北九州エコライフステージ事業・・・各地域が主体となって実施する「地域・テーマ別事業」、環境情報の交流の場・発信の場づくりを推進するポータルサイトの運営、その取組みの集大成として、市民・企業・NPO・行政等が集結し、日頃の環境活動やエコライフを発表・提案する環境イベントの開催等を行います。 (2)環境モデル都市地域推進会議登録団体支援事業・・・市民団体、NPO、事業者等が行う積極的な取組みを支援し、環境モデル都市を推進する活動の活発化を目指します。

【Action】改善	
課題	H23年度の評価結果を受けての課題 ・環境未来都市を目指す本市において、エコライフステージのメインイベントや年間の活動を通じ、さらなる市民・企業・行政等の交流によるネットワークの拡大と新たな取組みの創出・展開が求められます。 ・平成19年度から開始した「菜の花プロジェクト」は、菜の花を通じて資源循環を理解する、市民が気軽に取組むことができる活動である一方で、活動への補助申請や菜種の回収件数が伸び悩んでおり、一定の団体による取組みに限られている傾向にあります。
見直し内容	・活動団体等の相互交流や取組みの発信を進め、活動参加者数の拡大を図るため、専用ポータルサイトにおける情報発信力や活動のPR支援を強化します。 ・「菜の花プロジェクト推進事業」のあり方を見直し、活動する市民にとって活用しやすい支援制度に改善します。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価			
目的	対象(誰を、何を) 市民 目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 一人ひとりが楽しみながら環境活動に参加する仕組みをはじめ、実践や交流を重ねるための情報交流の場・発信の場づくりに取組み、さらなる取組を産み出すことにより、「市民環境力」の持続的な発展を目指します。	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック 大変順調	成果の状況	25年度実績(達成率) 224.6 % 成果の状況評価理由 過去最高の参加者数を記録し、目標値である74万人を大きく達成したため大変順調と考えています。	
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方) エコライフステージ参加者数(単年度) 参加者数とは、各地域が主体となって実施される「地域・テーマ別事業」の参加者数と、シンボル事業「エコライフステージ」(市民・企業・NPO・行政等が集結し、日ごろの環境活動やエコライフを提案するイベント)の来場者数の合計数です。市民の環境活動への参加が市民の環境力につながると考え、設定しました。 (最終目標と目標年度)74万人以上(平成28年度) 市民・企業・行政等の交流によるネットワーク構築と拡大 「市民環境力」を強化するための情報交流の場・発信の場づくりを推進します。具体的には、環境に配慮したイベント運営の実施、環境をテーマとしたポータルサイトの運営・効果的かつタイムリーな情報発信を行います。 (最終目標と目標年度) 市民・企業・行政等の交流によるネットワーク構築と拡大	上段:23年度実績 下段:24年度実績 73.9 万人 142.4 万人	25年度目標	74 万人以上	25年度実績(達成率) 166.2 万人 224.6 %	成果の状況評価理由 過去最高の参加者数を記録し、目標値である74万人を大きく達成したため大変順調と考えています。

活動計画	どうやって目的を達成するか ・環境情報・イベントをはじめ、活動団体等の取組み等の効果的かつ積極的な受発信などを通じ、地域や民間団体等が環境に対する意識を高めることにより、自ら企画・実施する環境活動の増加を目指します。 ・菜の花を通じた環境学習に関する取組みを、「環境モデル都市地域推進会議登録団体支援事業」に統合し、制度の簡素化を図るとともに、モデル都市の実現を促進する環境活動として一体的に推進します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック 大変順調	活動の状況	25年度実績(達成率) 139.0 % 活動の状況評価理由 過去最高の行事数を記録し、目標値である195行事を大きく達成したため大変順調と考えています。	
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明) エコライフステージ行事数 行事数とは、各地域が主体となって実施される「地域・テーマ別事業」及びシンボル事業「エコライフステージ」(市民・企業・NPO・行政等が集結し、日ごろの環境活動やエコライフを提案する環境イベント)の行事合計数です。地域で行われている環境活動の行事数増加が市民の環境力につながると考え、設定しました。	上段:23年度実績 下段:24年度実績 189 行事 191 行事	25年度目標	195 行事	25年度実績(達成率) 271 行事 139.0 %	活動の状況評価理由 過去最高の行事数を記録し、目標値である195行事を大きく達成したため大変順調と考えています。

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活導入の視点 「シンボルイベント」は、同時開催イベントや周辺施設との連携により年々広がりを見せるとともに、「地域・テーマ別事業」も、本市が目指す民間団体の企画によるイベントの充実などにより、平成25年度の参加者数は過去最高を記録したため大変順調と考えます。また、エコマンスの一環として他イベントと一体的に広報PRを行ったことも、参加者数増に貢献したと考えます。 本事業は、主に市の負担金と協賛金で成り立っており、事業実施にあたって、毎年、コストを見直すとともに、協賛金等の収入の増加に努めています。今後もより一層、効率的・経済的な運営に取組みます。

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	環境学習課
課長名	東田
施策番号	
VI - 1 - (2) - ①	
事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金
	<input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金
	<input type="checkbox"/> 一部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 指定管理
	<input type="checkbox"/> その他
()	
(人件費備考)	

事業概要					
事業名	環境ミュージアム及び北九州エコハウス維持管理業務				
	北九州市の環境の取組みの歴史を継承するとともに、本市の環境力をさらに高めるため、学習・情報・活動の3つの機能を備えた、環境学習拠点「環境ミュージアム」及び家庭での省エネ型のライフスタイルを提案する「北九州エコハウス」等の管理運営を行います。				
コスト	25年度当初予算額	25年度執行額	(事業費備考)	人件費	目金の金額
	74,273 千円	74,271 千円		5,475 千円	課長 0.15 人 係長 0.15 人 職員 0.30 人

【Action】改善

課題	H23年度の評価結果を受けての課題 新規来館者をはじめ、リピーターの増加を目指し、多様かつ充実したプログラムをもつ環境学習拠点としての機能強化を図る必要があります。	見直し内容	市民にとって身近で魅力的なミュージアムとなるため、 ○新たなプログラムの開発と活用 ○市民の要望をふまえたイベントや企画展等の検討・実施 などに取組みます。
----	---	-------	--

【Plan】計画

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	【Do】実施 → 【Check】評価	
	市民及び国内外の人々	市民をはじめ、本市を訪れる国内外の人々が、環境ミュージアムに来館し、そこで開催されるイベントをはじめ、また「出張環境ミュージアム」に参加することを通じ、「環境」について、気軽に見て・感じて・学び、そして交流・協働し、取組みを実践することを目指します。	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	大変順調	
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由
	環境ミュージアム利用者数(単年度)	104,973 人	130,000 人	131,851 人	
	環境教育・学習の中心的な役割を果たし、市内のみならず、国内外、さらに子どもから社会人、お年寄りまでの幅広い年齢層が集まる場であるため、指標としました。開館以来1度だけ突破したことがあるハードルの13万人を目標に掲げました。	128,464 人		101.4 %	
	(最終目標と目標年度)H26年度 130,000人			%	

【Do】実施

活動計画	活動の状況	【Check】評価		
どうやって目的を達成するか さらなる集客を図り、市民環境力の向上を目指して ○平成24年度に設置した体験学習の活用 ○魅力あるイベント等の企画・実施 ○大人向けプログラムの充実 などに取組みます。	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	大変順調		
指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標		
イベントや企画展の開催件数	130 回	100 回	131 回	活動の状況 評価理由
より多くの市民に来館していただき、市民・スタッフ・サポーターが対話を通して交流しながら情報提供を行うためには、より多くの企画展やイベントを開催することが大切です。目標値である100回は、年間の土日の日数です。	134 回		131.0 %	
スタッフ・環境学習サポーターの出張環境ミュージアム回数	123 回	100 回	108 回	
学校や市民センター、市の主催するイベント等、様々な場所へも出張し、数々のエコ工作や環境実験などのアクティビティを参加者とともに行うことで、市民に対し、学習機会を提供できると考えました。目標値である100回は、年間の土日の日数です。	117 回		108.0 %	

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点</p> <p>平成24年度には「北九州 地球の道」の体験学習プログラムなど新しいプログラムが導入されるとともに、AR(拡張現実)を活用した、展示内容と連動した環境に関するコンテンツなど様々な情報を発信する仕組みを構築するなど、学習の幅の広がりを見せています。さらに、新たな企画イベントやアクティビティの充実等により、成果指標である利用者数が13万人を超えたことから、成果・活動ともに大変順調としました。今後もさらに多くの市民等から愛される魅力的なミュージアムとなるよう、プログラムや展示内容の工夫が必要となります。そのため、平成26年度以降の指定管理者の見直しにあたり、今後のミュージアムのあり方をふまえた提案を募集するとともに、環境学習拠点として機能強化を図る新たな手法の検討が必要です。</p> <p>【経済性】(同成果を低コストで) 【効率性】(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点</p> <p>当業務は指定管理で行っており、民間のノウハウを最大限に活用し、効率的効果的な運営となっていると考えています。また、環境学習を中心とする本館では、日ごろから廃材の再利用に努めるとともに、企画展やイベント等でも裏紙や廃材を使い、手作りによる資料や材料を準備しています。環境学習サポーターによるエコ工作などにおいても同様です。無料化による収入減については、指定管理者独自の自主研修プログラム(スタッフ派遣や出張など)により、平成23年度までの入館料を上回る収入を確保することができており、総合的に経済的な業務遂行がなされています。</p>
-----------	--

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

事業概要					担当局	環境局		
					担当課	環境学習課		
事業名 ESD活動支援事業					課長名	東田		
					実施番号		VI - 1 - (2) - ②	
事業概要 持続可能な社会の構築を図るため、国連など世界規模で進められている「持続可能な開発のための教育(ESD)」を、北九州ESD協議会を中心に、市民、企業、大学等と連携しながら推進します。具体的には、あらゆる人々が地域等における様々な課題に気付き、つながり、既に実践している活動等にESDの視点を加えて、暮らしや社会のあり方等を変えていく人づくり・学びあいの場づくりを進めます。					事業手法 <input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()			
コスト	事業費	25年度当初予算額	25年度執行額	(事業費備考)	人件費	目金の金額	課長	0.30 人
		15,300 千円	13,804 千円			13,950 千円	係長	0.60 人
							職員	0.60 人
					(人件費備考)			

【Action】改善			
課題	H23年度の評価結果を受けての課題	ESDの概念が広範で抽象的であることなどから、「アンケート調査」におけるESD認知度が目標に達していません。今後は、ESDの概念を分かりやすく普及するための工夫を行い、地域におけるESDの認知度を向上させるとともに、活動に参加する仕組みづくりが必要です。	見直し内容 これまでESDを認知していなかった市民が、新たにESDの考え方を認識し活動に参加できるよう、 ○ESDの推進拠点RCEの一つとして、国連が進める「ESDの10年」の最終年会合をふまえたプレイベントの実施 ○地域におけるESD活動普及の鍵となる人材の育成 ○市内10大学の連携による「まちなかESDセンター」との連携した活動 などに取り組みます。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	順調	
代表的な成果指標	市民	「持続可能な社会づくり」を担う人材を育むため、世界共通の課題である持続可能性の視点を持ちながら、身近な地域等のさまざまな課題に取り組むESD活動の全市民的な普及拡大を目指します。				
		指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由
		市民のESD活動の認識の向上と活動の普及	—	認識の向上と活動の普及	—	認知度のアンケート結果は、平成24年度:4.5%→平成25年度:5.1%と微増ながら上昇していますが、目標の半分程度という結果となりました。 しかし平成25年度は、翌年度に「ESDの10年」の最終年会合が開催されることをふまえ、 ○本市で開催した「アジア太平洋RCE地域会議」の、のべ参加者数が900人 ○ESDコーディネーター研修に、地域活動の核となる市民センター館長等からの関心が高く、実践を始めた地域が誕生 ○「まなびとESDステーション」において学生を中心とした20を超える取組みが開始 など国内外への発信をはじめ、市民におけるESD活動が着実に広がってきていると捉えているため、順調としました。
		(最終目標と目標年度) 認識の向上と活動の普及	4.1 %	10.0 %	5.1 %	
	アンケート調査におけるESD認知度	4.5 %			51.0 %	
	活動を推進する上で、まずはESDについての認知度を高めるための取組みが重要であり、認知度の把握は不可欠であることから、「アンケート調査」内のESDについての認知度を指標として設定しました。					
	(最終目標と目標年度) 20% 平成26年度					

活動計画	2014年に提案国である日本で開催する「ESDの10年」の最終年会合に向けて、RCE地域として盛り上げるとともに、市民におけるESDへの理解と普及を図り、活動を一層活性化させるため、これまでの取組みに加え、 ○「ESDの10年」最終年会合に向けたプレイベントとして市制50周年の2013年に、本市で「アジア太平洋RCE会議」を開催 ○地域でESD活動を普及する中心的存在を果した「ESDコーディネーター」の育成 ○市内10大学連携による「まなびとESDステーション」との協働 などを行います。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	順調		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由	
	活動団体登録数	72 団体	76 団体	75 団体	国内で行われる「ESDの10年」の最終年会合のプレイベントとして、市制50周年である平成25年に、アジア太平洋地域のRCEが集結する国際会議と一般公開の国際シンポジウムを開催し、国内外から好評を得ることができました。活動団体の登録数は、平成24年度の74団体から、75団体へと微増でしたが、協議会のアクションプランにもとづき、着実に活動を進めていること、国際会議等の企画・運営を通じて、パートナーシップの強化を図ることができ、平成24年度から引き続き、コーディネーターの育成講座を実施したことなどから、順調としました。	
	本市のESD活動の中心となっているESD協議会への登録団体数を、活動の指標として設定しました。目標については、環境モデル都市地域推進協議会メンバー(約380団体)の2割程度の数字としています。	74 団体			98.7 %	
					%	

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	ESDの認知度については、ESDの概念が抽象的で分かりにくいことなどの理由から、アンケート市民意識調査における認知度が目標に達しませんでした。一方で、本市におけるアジア太平洋RCE地域会議の開催は、本市の取組みを世界に発信するとともに、国内外のRCEとの交流・パートナーシップの強化をはじめ、市民におけるESD活動の活性化への大きな後押しとなりました。さらに、市内10大学連携により平成25年3月にオープンした「まなびとESDステーション」における地域と協働の学生の取組みや、ESD活動の普及を担う「ESDコーディネーター」の育成など、これまでESDを認知していなかった市民が新たに認識し、活動に参加しやすい基盤が整えられました。このように市民におけるESD活動の広がりが認められ、認知度も毎年度微増ながらも増加しているため、活動・成果ともに順調としました。今後さらに多くの市民がESDを理解し、実践活動に導くための普及啓発を効果的に進めていく必要があります。
	「ESDの10年」の最終年会合に向けて、RCEの一つとして、従来からの活動に加え、国際会議の準備・運営等を通じ、国内外のネットワークの強化・連携事業の実施などを行うとともに、それを大きな機会としてESD普及啓発活動を進めることができました。また、ESD活動の普及の鍵となるESDコーディネーターの育成については、「市民活動団体等による環境未来都市推進支援事業」の補助金を活用してNPOと協働で実施することにより、相互の利点を活かした効率的効果的な取組みを行うことができました。

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

		担当局	環境局
		担当課	環境学習課
		課長名	東田
事業名	環境人財育成事業		施策番号
			VI - 1 - (2) - ②
事業概要	あらゆる世代に対して環境学習・体験・協働の充実を図るとともに、専門的かつ実践的な知見を身につけた人材を育成することを目的としています。その中の主要事業「環境首都検定」は、世界の環境首都を目指す北九州市の取組や魅力を再発見し、実践的な環境行動につなげるきっかけづくりを行うものです。		<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
	コスト	25年度当初予算額 25年度執行額 15,899 千円 13,496 千円	(事業費備考) 目金の金額 課長 0.15 人 8,475 千円 係長 0.30 人 職員 0.50 人 (人件費備考)

【Action】改善			
課題	H23年度の評価結果を受けての課題	H23年度のジュニア編受検者は86人で、全受検者1879人の5%に満たない少数となりました。これは検定当日が日曜日であり、学校参加が難しかったためと考えられます。今後より多く受検してもらうためには受検のあり方を検討していく必要があります。	見直し内容 学校受検が容易となるようは受検制度の構築を進めていくとともに、教育委員会とも連携しPRに努め、小学校受検の拡大に努めています。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を) 市民 目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 検定の実施により、市民の環境への学習機会を増やし、環境意識のレベルアップや環境に関心を持つ市民の裾野を広げます。また、市民が北九州市の環境について精通することを目指します。	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック やや遅れ	
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方) 北九州市環境首都検定の受検者数(単年度)	上段:23年度実績 下段:24年度実績 1,879 人	25年度目標	25年度実績(達成率)
	受検者数を増加させ、環境について自己啓発に励む市民の創出を目指し、検定受検者数を指標に設定しました。	2,024 人	3,000 人	2,141 人
	(最終目標と目標年度) 平成28年度 5,500人			71.4 %
	(最終目標と目標年度)			%
				受検者数は年々増加しています。ジュニア編については、小学校受検が増え、1,132人が受検しました。これはH23年度の10倍以上となります。しかし、総受検者数が伸び悩み、前年度実績は上回ったものの、H25年度の目標値には届かなかったため、やや遅れとしました。

活動計画	どうやって目的を達成するか ・企業や団体に対して、メールやチラシなどで広報を行い、イベントでもPRを行います。前回受検者や大学、教育委員会を通じた小学校への受検呼びかけなど、効果的なPRを実施します。 ・応援団制度により協力企業・団体をPRしたり、表彰制度により団体高得点者を表彰したりすることによって、団体受検の増加を目指します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック 順調	
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明) 受検啓発・PRの実施回数	上段:23年度実績 下段:24年度実績 4 回	25年度目標	25年度実績(達成率)
	検定受検者数増加を目指し、イベント等において検定のPR活動を行います。(エコライフステージでのミニ検定実施、市民カレッジでの「環境首都検定合格講座」、市民センターでの「地域デビュー支援事業」等)	4 回	5 回	7 回
	団体での受検数	105 団体	90 団体	140.0 %
	学校や企業、市民団体等、グループ受検することでの受検を推進し、受検者数の増加をめざします。	92 団体		69 団体
				76.7 %
				教育委員会を通じて小学校への受検呼びかけを行い、市民センター等でも目標を上回る啓発活動を行いました。その結果、団体受検数は減少したものの、小学校受検数が大幅に増加したため、活動の状況としては順調と評価しました。

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 団体受検の増加を目指し、学校関係を中心に啓発やPR活動を行ってきました。その結果、小学校以外の団体受検は減少したものの小学校受検が大幅に増加し、総受検者数も前年を上回りました。啓発やPR活動について一定の成果を得たと分析しています。しかし、小学校以外の団体を含む一般受検が減少しているため、総受検者数は今年度目標に届いていません。今後は啓発やPR活動の機会を増やすなど、一般受検者も増加するよう工夫する必要があります。
	【経済性】(同成果を低コストで) 【効率性】(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点 平成25年度より、受検受付や採点、受検票・成績表の発送など、大幅な業務委託を行い民間活力を導入しました。今後も検定の事前準備や当日の会場運営などをまとめて業務委託するなどして、より一層、経済性・効率性の向上を図っていきます。

P D C Aチェックシート(平成 25 年度実績評価)

					担当局	環境局	
					担当課	総務課	
					課長名	武田	
事業名	環境未来都市広報事業					施策番号	
						VI - 1 - (2) - ③	
事業概要	環境未来都市の認知度の向上及び環境広報の強化のため、環境マスコットキャラクター「ていたん」を活用した広報や、イベント等でのPRを継続して行います。					<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他	
						コスト 事業費	
				(事業費備考)			
				目金の金額		課長 0.30 人	
				8,700 千円		係長 0.30 人	
						職員 0.30 人	
						(人件費備考)	

【Action】改善

課題	平成24年度も、環境マスコットキャラクターの「イベントへの参加日数」、「使用承認件数」が順調に伸びており、「環境未来都市」としての本市の認知度の向上が進んでいる状態といえます。しかし、市の代表的なキャラクターとまではなっていないことから、今後も市民が多く参加するイベント等に出演し、継続的にPRを行っていきます。	見直し内容	平成24年度をもって、緊急雇用創出事業が終了するため、事業費を縮小せざるを得ませんが、環境関連イベントやPR効果の高いイベントに特化し、引き続きイベント出展やPRノウハウを有する業者へ委託を行っていきます。
----	--	-------	---

【Plan】計画

【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	順調
	市民	環境マスコットキャラクターを環境広報・PRに活用することによって、「環境未来都市」の認知度の向上を図るとともに、市民の環境意識をさらに高めることを目指します。				
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由	
	アンケート調査における環境未来都市選定の認知度	-	単年度目標設定なし	70.9 %	選定当時に比べ平成25年度は、大規模なメディア露出が落ちていたこともあり、認知度は70.9%と前年度より3.2ポイントダウンしました。しかし、これまでの若年層をターゲットにしたPR活動により、学生の認知度が63.6%から81.8%と18.2ポイントアップしたことから、着実に効果が出てきていると考え順調としました。	
	環境マスコットキャラクターを活用した「環境未来都市」の認知度向上に取り組んでいます。アンケート調査における環境未来都市の認知度を指標に設定し、その向上を図ります。北九州市環境未来都市計画の5年間に実施する取組みの最後となるH28年度に80%以上を目指します。	74.1 %				
	(最終目標と目標年度)80%以上(H28年度)			- %		
(最終目標と目標年度)			%			

活動計画	どうやって目的を達成するか	環境マスコットキャラクターの環境関連イベントへの出演や、啓発グッズの制作・配布を通じて、市民の目に触れる機会を増やします。		活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	順調
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由	
	環境マスコットキャラクターイベント参加回数	68 回	72 回	130 回	環境マスコットキャラクターイベント参加回数の大幅な目標達成により、順調としました。	
	環境関連のイベントへの出演日数や、その他イベントでのブースの出展等の参加日数を増やし、環境マスコットキャラクターと併せて本市環境施策の認知度の向上を図ります。	195 回		180.6 %		
	環境マスコットキャラクター使用承認申請数	28 件	48 件	47 件		
行政機関以外が環境マスコットキャラクターを使用する機会を増やすことで、市民の目に触れる機会を増やします。	45 件		97.9 %			

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	成果の状況では、全体的な認知度は前年を下回りましたが、年代別では20歳～40歳代の認知度が73.8%、学生の認知度は81.8%と、若年層への周知が図れてきています。今後は、これまでの活動の継続を行うとともに、50歳～60歳代の認知度を向上に向けて、啓発方法についての検討を行います。活動の状況については、イベント参加数の大幅に目標を達成するとともに、使用申請数も目標どおりであり、順調といたしました。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果)の分析 ※民間活力導入の視点	今年度より、緊急雇用創出事業が終了しイベント出演に係る業者委託の予算が減少したため、着ぐるみの貸出を開始しました。月平均5.6回の貸出となり、年度目標を大きく達成しました。経済性、効率性から見て、順調と考えます。

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

事業概要				担当局	環境局			
				担当課	環境未来都市推進室			
事業名 中小企業省エネ設備導入促進事業				課長名	山本			
				施策番号		VI - 2 - (2) - ①		
事業概要 工場や事業所における一層の省エネルギー対策を推進するため、省エネ設備や新エネ設備を設置する市内の中小企業等に対し、設置費用の一部を補助する事業を実施しています。				事業手法 <input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()				
コスト	事業費	25年度当初予算額 150,000 千円	25年度執行額 135,703 千円	(事業費備考)	人件費	目金の金額 4,825 千円	課長 0.05 人 係長 0.20 人 職員 0.30 人	(人件費備考)

【Action】改善			
課題	H23年度の評価結果を受けての課題	成果指標・活動指標ともに目標を達成しており、事業は大変順調に進んでいます。	見直し内容 過去の実施状況予算措置等を踏まえ、補助対象事業、要件の見直しや新たに交付回数の制限を設けるなど一部制度改正を行い、さらなる低炭素社会作りを推進しています。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を) 市内中小企業等	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 省エネルギー型設備及び新エネルギーを利用した発電設備が普及した状態を目指します。また、市内における投資を促進し、地域産業の活性化を図ります。		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック 大変順調
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	上段: 23年度実績 下段: 24年度実績	25年度目標	25年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由
	省エネルギー効果	2,632,484 kWh	600,000 kWh	集計中 (H27.9月見込み) kWh	使用電力量など事業実施前(H24)と実施後(H26)を比較し、効果検証を行います。市内中小企業の補助金へのニーズが非常に高いもので、今後省エネ効果が見込まれます。
	省エネルギー型設備及び新エネルギーを利用した発電設備の導入による省エネルギー効果を成果指標としました。補助事業者の平成24年度と平成26年度の使用電力量から省エネ効果を算出します。 (最終目標と目標年度)	現在集計中 H26.9月見込み		%	
				%	
(最終目標と目標年度)			%		

活動計画	どうやって目的を達成するか 省エネルギー型設備(高効率空調、高効率照明、高効率ボイラー、節水型便器等)、新エネルギー(太陽光発電、小型風力発電等)を利用した発電設備を複合的に導入する市内の中小企業等に対し、補助対象経費の3分の1以内、1件あたりの限度額300万円で助成を行います。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック 大変順調		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	上段: 23年度実績 下段: 24年度実績	25年度目標	25年度実績 (達成率)	活動の状況 評価理由
	補助金交付件数	41 件	100 件	102 件	131件の補助金申請に対し、102件の交付決定を行いました。
	省エネ設備及び新エネ設備の導入により低炭素社会づくり及び地域産業の活性化を目指します。	125 件		102.0 %	
				%	
			%		

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点</p> <p>予算額150,000千円に対し、予算を上回る182,534千円の応募があり、活動は予定どおり目標を達成しました。成果については、補助事業者の平成24年度と平成26年度の使用電力量から省エネ効果を算出することとしており、一定の省エネ効果が見込まれます。今後は、事業者の多様なニーズをいかに取り込み、投資効果を高めることが課題であると考えています。</p> <p>【経済性】(同成果を低コストで) 【効率性】(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点</p> <p>目標を上回る件数の応募があり、市内の低炭素型社会づくり及び地域産業の活性化につながっていると考えています。</p>

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

事業概要							担当局	環境局
							担当課	環境未来都市推進室
北九州市役所環境・エネルギープロジェクト推進事業							課長名	平石
							施策番号	
事業概要 環境モデル都市としての市役所の率先垂範を実践するため、また、省エネ法及び温対法の規制へ対応するため、平成23年度から本事業により市役所の環境・エネルギー対策として、省エネ・節電を推進します。また、市民等に省エネ・節電を広く浸透させます。							事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()	
コスト	事業費	25年度当初予算額	25年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額		課長 0.10 人
		18,900 千円	14,748 千円			6,150 千円	係長 0.20 人 職員 0.40 人	

【Action】改善

課題	H23年度の評価結果を受けての課題 市役所の推進はH23から取り組んでおり、運営面で大幅な省エネ・節電は見込めません。市民向け対策も、参加人員は増加しているが、周知が足りていません。	見直し内容 市役所においては、これまでの省エネ・節電の活動の徹底と、省エネ機器への更新を実施します。また、市民向けには、広報・周知に力を入れ、多くの市民の参加を促します。
----	--	--

【Plan】計画

【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	順調
	市役所、市民	省エネ・節電を推進するとともに、市民等に省エネ・節電を広く浸透させます。			
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由
	市有施設のエネルギー消費原単位の改善	10 %	前年度比 1%	4 %	本庁舎では、▲18.2%、区役所では▲16.4%の節電効果があることから、成果の状況は順調と判断しています(数字はいずれも平成22年度比)。
	省エネ・節電の評価指標として、市有施設の総エネルギー使用量の年1%(前年比)以上の改善を指標としました。	10 %			
	(最終目標と目標年度)H27年度までに総エネルギー使用量H22年比5%減				
(最終目標と目標年度)					

活動計画	どうやって目的を達成するか 環境モデル都市としての市役所の率先垂範を実践するため、全体会議を開催し、各局における省エネ・節電の全庁的な取組みを推進します。また、市民等に省エネ・節電を広く浸透させます。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	順調	
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由
	節電推進本部会議開催回数	6 回	- 回	4 回	本部会議の回数が減ったにもかかわらず、節電効果は継続しており、市役所職員の活動に浸透していると判断しています。また、省エネ王コンテストの参加人数も昨年引き続き増加しており市民向けの啓発も順調であると判断しています。
	全庁的な省エネ・節電を推進するため、北九州市節電推進本部を設置し、本部会議を開催します。	9 回		- %	
	省エネ王コンテスト参加人数	95 人	- 人	915 人	
市民向けに家庭での省エネ・節電を推進するため、消費電力削減率により選考する省エネ王活動コンテストを開催します。	761 人	- %			

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	市役所における成果については、▲18.2%、区役所では▲16.4%の節電効果があることから、有効な取組みであると判断しています(数字はいずれも平成22年度比)。また、省エネ王コンテストについては、平成25年度も24年度に引き続き700名を超える小学生の参加があり、23年度と比較して大幅に増加しています。今後も教育委員会と協力し、より多くの市民に参加してもらえるように周知を図ります。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	引き紐スイッチの設置や高効率空調設備への更新など、節電による経済的にも効果の高いものから効率的に取り組んでいます。

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

事業概要					担当局	環境局
					担当課	環境未来都市推進室
					課長名	山本
事業名	環境未来技術開発助成事業				施策番号	
					VI - 2 - (2) - ②	
事業概要	循環型経済社会及び低炭素社会の実現に向け、市内における先進的かつ実現性の高い環境技術の研究を支援することにより、環境産業の振興を図り、我が国ひいては世界的な環境分野の課題の解決に先導的役割を果たすことを目指します。				事業手法 <input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()	
コスト	事業費	25年度当初予算額	25年度執行額	(事業費備考)	人件費	目金の金額
		53,818 千円	50,745 千円			課長 0.03 人 係長 0.20 人 職員 0.30 人
					(人件費備考)	

【Action】改善			
課題	H23年度の評価結果を受けての課題	平成24年度8月調査時点における事業化数は14件であり、また、平成24年度も12件の採択をしていることから、目標の達成に向けて事業は順調に進んでいると考えます。申請を受ける研究テーマによりますが、採択に際しては予算の範囲内で事業化の実現性の高い優れた研究を吟味することが課題であると考えます。	見直し内容 事業費全体としては縮小しますが、希少金属(レアメタル)・資源のリサイクルや新エネルギー・省エネルギー関連技術における事業化目前の研究開発を支援するため、新たに「上限額:2,000万円、助成期間:1年間、助成率2/3」という枠組みの「事業化チャレンジ枠」を設け、さらに事業化の促進を図ります。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を) 市内中小企業等	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 新規性、独自性に優れ、かつ実現性の高い環境技術の実証実験等に対して、その研究開発費の一部を助成することにより、市内中小企業等に技術開発の機会を提供するとともに、本市における環境分野の集積を図ります。	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	順調
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	成果の状況評価理由 平成25年度実績については、集計中ですが、平成24年度まで目標を上回る成果を上げていることから、「順調」としました。
	本助成事業で助成した研究開発の事業化数(累計:事業化チャレンジ枠分を除く)	14 件	21 件	集計中(平成26年9月頃見込み) 件	
	本事業は、事業化を目指した実証研究等に対する助成であるため、「事業化数」を成果指標に設定します。	20 件		%	
	(最終目標と目標年度) 28件(32年度末)		%		
(最終目標と目標年度)					

活動計画	活動の状況	活動の状況
どうやって目的を達成するか 平成25年度も、市内中小企業等に技術開発の機会を提供するとともに、本市における環境分野の集積を図るため、本助成制度を引き続き実施します。	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	順調
指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標
本助成事業の採択件数(単年度:事業化チャレンジ枠分を除く)	17 件	10 件
上記活動計画の目安とするため、本助成事業の採択件数を活動指標として設定します。	12 件	
		25年度実績(達成率)
		11 件
		110.0 %
		%
		活動の状況評価理由 平成25年度実績で目標を達成していることから、「順調」としました。

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点</p> <p>成果の状況、活動の状況とも目標を達成していることから、いずれも「順調」としました。当事業を進めることで、市内中小企業等に技術開発の機会を提供することができ、地域産業の活性化につながっていると考えています。</p> <p>【経済性】(同成果を低コストで) 【効率性】(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点</p> <p>上記のとおり、事業化数は目標どおり年々増加し、市内環境産業の振興・集積につながっていることから、「順調」としました。</p>

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

事業概要				担当局	環境局		
				担当課	循環社会推進課		
				課長名	敷田		
事業名	古紙リサイクル推進事業			施策番号			
				VI - 3 - (1) - ①			
事業概要	一般廃棄物の減量化・資源化促進のため、回収量に応じた奨励金の支給や、古紙回収用保管庫の貸与などを通じ、町内会等の市民団体による古紙の集団資源回収活動を支援します。			<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (奨励金)			
				事業手法 (人件費備考)			
コスト	25年度当初予算額	25年度執行額	(事業費備考)	人件費	目金の金額	課長	人
	271,776 千円	248,865 千円			2,750 千円	係長	0.05 人
						職員	0.30 人

【Action】改善			
課題	H23年度の評価結果を受けての課題	家庭ごみの中に雑がみなどの古紙が約15%も含まれている現状を踏まえ、これらの分別回収を促進するため、周知・啓発の強化を行う必要があります。	見直し内容
			古紙回収の促進により家庭ごみの減量化を目指すとともに、回収活動を通じた奨励金の支給により地域活動の活性化を図ります。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	古紙回収量	古紙の集団資源回収の支援を通じ、家庭ごみの約15%を占める古紙の減量化・資源化を図るとともに、奨励金の支給による地域活動の活性化を図ります。			
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由
	古紙の年間回収量の増加(単年度)	29,106 トン	30,500 トン	27,784 トン	スーパーでの店頭回収など古紙回収機会の多様化等により、集団資源回収による古紙回収量は減少したが、古紙回収に取り組むまちづくり協議会や回収団体は増加しています。 小売店舗店頭回収量2,663トン 集団資源回収量 27,784トン 合計回収量 30,447トン
	平成23年度に策定した循環型社会形成推進基本計画に掲げたりサイクル率35%以上を目指すため、平成32年度までに1人あたりの古紙回収量の10%増加(対平成21年比)を目指します。	28,708 トン			
	(最終目標と目標年度) 1人あたり10%回収量の増加(H32年度)				
	古紙回収に取り組むまちづくり協議会数	123 団体	136 団体	130 団体	
未回収地域の解消を図るため、古紙回収に取り組むまちづくり協議会の増加を目指します。	128 団体				
(最終目標と目標年度) 全136団体の参加(目標年度の設定なし)			95.6 %		

活動計画	・市制50周年記念事業として市民いっせい雑がみ回収グランプリを行い、雑がみの分別回収および古紙回収全体の周知・啓発を行います。 ・未回収地域の解消を図り古紙回収量の増加を目指すため、未回収地域のまちづくり協議会に対して、積極的に集団資源回収への参加を呼びかけます。また、かえるプレスへの掲載や出前講座、古紙リサイクルバスツアー等を通じて古紙回収についての周知を行います。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	大変順調	
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由
	未登録団体への個別訪問件数	-	8 団体 (訪問件数)	8 団体	市民いっせい雑がみ回収グランプリで1ヶ月に約100トン(昨年年間回収量1.2トン)の雑がみを回収しました。また、広報活動やまちづくり協議会への個別回収等を通じて、古紙回収の周知・啓発を積極的に行いました。
	集団資源回収に未参加のまちづくり協議会に対して、個別に訪問説明し、登録を促します。	13 団体			
	広報活動の実施	4 回	単年度目標設定なし	20 回	
市HPやかえるプレスへの掲載、出前講演等で周知・啓発を行い、更なる協力を呼びかけます。	16 回	%			

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点</p> <p>【経済性】(同成果を低コストで) 【効率性】(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点</p> <p>スーパー等での店頭回収が増加などの影響により、集団資源回収量は微減となっていますが、家庭ごみの減量化に大きく貢献しており、奨励金は地域コミュニティの活性化に寄与していることから、引き続き啓発や周知を行うことにより、回収量の増加に向けた取組みを進めていきます。</p> <p>行政回収よりも低コストで、団体は回収業者と自由に契約ができるため利便性が高く、奨励金は町内会等の貴重な活動資金となっていることから、地域コミュニティの活性化を図る上で、大きな役割を担っています。</p>

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

				担当局	環境局
				担当課	循環社会推進課
				課長名	敷田
事業概要				施策番号	
				VI - 3 - (1) - ①	
事業名	地域特性型(メニュー選択方式)市民環境活動推進事業				
事業概要	地域団体等の自主的な活動により回収される家庭から排出された剪定枝及び廃食用油について、収集運搬作業及びリサイクル処理を側面的に支援することにより、循環型社会に向けたリサイクルの推進、ならびに地域団体等による自主的な環境活動の拡大及び地域コミュニティの活性化を図ります。				事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
コスト	25年度当初予算額	25年度執行額	(事業費備考)	人件費	目金の金額
	10,464 千円	10,220 千円			11,125 千円
				課長 0.25 人 係長 0.25 人 職員 1.15 人	(人件費備考)

【Action】改善

課題	H23年度の評価結果を受けての課題 剪定枝については、回収団体の増加に伴い経費が増加する可能性があります。 廃食用油については、約30カ所の民間スーパー等で廃食用油を回収しているなど、地域における状況が大きく変化していることから、事業内容の検討を行う必要があります。	見直し内容	剪定枝については、複数の団体の回収日を同一日にする等作業の効率化を図ることで、事業費を削減し、引き続き剪定枝のリサイクル支援を行います。 廃食用油については、民間事業者独自の回収体制整備状況と市民の利便性を考慮した、廃食用油の回収拠点の整備を図ります。
----	---	-------	---

【Plan】計画

【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	順調
	地域団体	北九州市循環型社会形成推進基本計画に掲げている「市民等各団体が主体的・協動的に3R・適正処理に取り組むことに通じた持続可能な都市モデル」を目指すため、地域団体が自主的に行う環境活動を推進します。				
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由	
	剪定枝、廃食用油の回収及びリサイクル(単年度)	剪定枝 159.17t 廃食用油 6,298ℓ	単年度の目標設定はありません	剪定枝 174.74t 廃食用油 6,497ℓ	剪定枝及び廃食用油ともに回収量が増加しました。	
	地域団体等の自主的な活動により回収される家庭から排出された剪定枝及び廃食用油について、収集運搬作業及びリサイクル処理を側面的に支援することにより、家庭ごみ量の減量化及びリサイクル率の向上を目指します。 (最終目標と目標年度) H32年度に家庭ごみ量の7%削減(対21年度比)及びリサイクル率35%以上。	剪定枝 163.04t 廃食用油 6,152ℓ		— %		
	3Rの意識の醸成		3Rの意識醸成を図ります	—		
地域が自主的に取り組むリサイクル活動により、3Rの意識醸成を行い、市民による環境活動を推進します。 (最終目標と目標年度) 3Rの意識醸成			— %			

活動計画	どうやって目的を達成するか	家庭から排出された剪定枝及び廃食用油を民間の委託業者を活用し、回収、リサイクル処理を行います。また、市民が参加しやすい体制の整備を図るとともに、剪定枝、廃食用油リサイクルを周知するため、広報活動を行います。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	順調
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由
	広報活動の実施	4 回	目標設定はありません	12 回	広報活動を積極的に行い、剪定枝の回収団体が、前年度より2団体増加しました。
	出前講演やちらし等の配布による広報活動を実施します。	10 回		%	
				%	
			%		

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	活動は予定通り行い、剪定枝の回収について、実施団体が新規に2団体増加しました。また、地域団体が協力して回収を行うことで、地域コミュニティの活性化に繋がりました。剪定枝や廃食用油がリサイクルされることにより、ごみ焼却量の削減に繋がるとともに、循環型社会の推進に寄与していると考えます。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点	地域が自主的に取り組むリサイクル活動であり、市民環境力による3R活動を推進する上で必要と考えます。経費の主な使途は、回収と処理費用ですが、回収業務と処理業務を一括契約することにより、コスト削減に努めています。

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

				担当局	環境局
				担当課	循環社会推進課
				課長名	敷田
事業概要				施策番号	
				VI - 3 - (1) - ①	
事業名	循環型社会を形成するための環づくり支援事業				
事業概要	市民一人ひとりが取り組むことが出来る生ごみの減量化・資源化を目指し、生ごみの「使い切り、食べ切り、水切り」の「3切り運動」の推進や、生ごみコンポスト化の基礎知識やコンポスト化容器活用方法等を習得する講座の実施等を通じ、循環型社会の形成を図ります。 ※「地域特性(メニュー選択方式)市民環境活動推進事業(生ごみ処理機設置助成事業)」「地域特性型(メニュー選択式)市民環境活動推進事業(生ごみリサイクル事業)」の事業は統合されました。				事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
コスト	25年度当初予算額	25年度執行額	(事業費備考)	人件費	目金の金額
	6,742 千円	5,936 千円			14,825 千円
				課長	0.05 人
				係長	0.60 人
				職員	1.10 人

【Action】改善			
課題	H23年度の評価結果を受けての課題	生ごみコンポスト化容器活用講座等やリデュースクッキング講座により、家庭ごみの減量化・資源化に対する市民の環境意識の醸成を図る取組みを検討します。	見直し内容 生ごみコンポスト化容器活用講座等の参加人数を増やすことにより一層の環境意識の醸成を図ります。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	順調
	市民	生ごみコンポスト化容器を使用した生ごみリサイクル活動、生ごみの「使い切り、食べ切り、水切り」の「3切り運動」を推進することにより、家庭ごみの約40%を占める生ごみの減量化・資源化の推進を図ります。			
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由
	生ごみの減量化		単年度の目標設定はありません	計画の中間目標年度(H27年)に、達成率の精査する予定	通年の生ごみコンポスト化容器活用講座等の開催及び生ごみの3切り運動啓発実施を行い市民の環境意識の醸成に繋がっています。
	北九州市循環型社会形成推進基本計画において、家庭ごみ量における生ごみ(厨芥類)の8%削減(対H21年度比)を目指します。 (最終目標と目標年度)H32年度に家庭ごみ量における生ごみ(厨芥類)の8%削減(対H21年度比) (H21年度は、86,044トン)			%	
	3Rの意識醸成		3R意識の醸成を図ります	—	
地域が自主的に取り組むリサイクル活動により、3Rの意識醸成を行い、市民による環境活動を推進します。 (最終目標と目標年度)			%		

活動計画	どうやって目的を達成するか	リデュース活動推進事業としては、生ごみの減量化を図るため、リデュースクッキング講座を開催します。また、リサイクル活動推進事業として、生ごみコンポスト化容器活用講座や、地域生ごみリサイクル講座を実施します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	順調
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由
	リデュースクッキング講座	- 回	3 回	1 回	昨年度開催している生ごみコンポスト化容器活用講座等の中に新たな地域での講座開催ができています。
	生ごみ発生抑制となる調理方法や生ごみの「使い切り、食べ切り、水切り」の「3切り運動」の重要性を紹介するリデュースクッキング講座を実施します。	1 回		33.3 %	
	生ごみコンポスト化容器活用講座等延べ参加人数	834 人	750 人	739 人	
生ごみコンポスト化容器の普及と活用を推進するため、生ごみコンポスト化容器講座等を実施します。	872 人	98.5 %			

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点</p> <p>個人や地域が自主的に取り組むリサイクル活動であり、かつ生ごみの減量化・資源化を促進する事業です。生ごみコンポスト化容器講座及び地域生ごみリサイクル講座の参加者の増加により、地域コミュニティの活性化や家庭ごみの減量化・資源化の市民の環境意識の醸成に繋がります。</p> <p>【経済性】(同成果を低コストで) 【効率性】(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点</p> <p>生ごみの減量化は、大規模堆肥化施設等による堆肥化やガス化等が考えられますが、生ごみの分別回収に関するコストや、施設の建設コスト等が発生します。それらと比較して、本事業は低いコストでより高い効果が得られると考えています。</p>

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

事業概要 「北九州市循環型社会形成推進基本計画」推進事業				担当局	環境局			
				担当課	循環社会推進課			
事業名				課長名	敷田			
				施策番号 VI - 3 - (1) - ②				
事業概要 本市では、廃棄物の処理及び清掃に関する法律第6条の規定に基づき「北九州市循環型社会形成推進基本計画」(本市の一般廃棄物処理計画)を策定し、本計画に基づきごみの減量化・資源化、適正処理の推進等を行っています。本事業では本市のごみ処理に関する現状を分析し、より効果的・効率的な施策や啓発・広報の方法の検討を行います。				事業手法 <input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()				
コスト	事業費	25年度当初予算額	25年度執行額	(事業費備考)	人件費	目金の金額	課長	0.05 人
		111 千円	0 千円			2,325 千円	係長	0.10 人

【Action】改善			
課題	H23年度の評価結果を受けての課題	平成23年8月に策定した「北九州市循環型社会形成推進基本計画」の目標達成に向けて、各事業と連携をしながら、ごみの減量化・資源化の取組みを進める必要がある。	見直し内容 各事業と連携するなかで、平成25年度は家庭ごみの中に15%の「古紙」が含まれることに注目し、市制50周年記念事業の一環として、北九州市衛生総連合会創立50周年との合同事業において、雑がみの回収促進を図る取組みを実施します。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	順調
	市民、事業者、NPO、行政	今後10年間の先駆的な廃棄物行政のあり方を示す「北九州市循環型社会形成推進基本計画」に基づいて、市民、事業者、NPO、行政など地域社会を構成する各主体が連携・協働して取組みを進め、従来の「循環型」の取組みに「低炭素」「自然共生」の取組みを加えた「持続可能な都市のモデル」の実現を目指していきます。				
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由	
	市民1人一日あたりの家庭ごみ量	509 g	単年度の目標設定はありません	集計中 (H26.9頃見込み)	平成25年度における単年度目標は設定していませんが、前年度と比較して家庭系ごみの収集量が減少傾向にあります。計画の中間目標年度(H27)に精査する予定です。	
	平成21年度:506g⇒平成32年度:470g以下 (最終目標と目標年度)470g以下(H32年度)	507 g		%		
	一般廃棄物のリサイクル率	28.3 %	単年度の目標設定はありません	集計中 (H26.9頃見込み)		
平成21年度:30.4%⇒平成32年度:35%以上 (最終目標と目標年度)35%以上(H32年度)	27.9 %		%			

活動計画	どうやって目的を達成するか	平成23年度に策定した「北九州市循環型社会形成推進基本計画」の目標達成のため、さらなるごみの減量とリサイクル率の向上に向けて、データを集積して最新の現状を分析し、より効果的・効率的な施策や啓発・広報の方法の検討を行います。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	順調
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由
	計画全体の事業実施状況の把握	-	目標設定はありません	各事業のデータ収集等を実施	左記の活動計画に基づき、本市のごみに関するデータ(発生量・処理量・リサイクル量など)の収集・分析及び施策や啓発・広報の検討を行いました。
	「北九州市循環型社会形成推進基本計画」に基づき実施された各事業について、その内容及び進捗状況等に関するデータを収集します。	-		%	
				%	
			%		

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 【経済性】(同成果を低コストで) 【効率性】(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点
	本市のごみに関するデータを収集・分析し、下記のような啓発・広報を行い、3Rの取組みを推進しました。 【事例1】現状:家庭ごみの全重量のうち、約15%が古紙 ⇒ 問題点:資源として回収できる古紙が捨てられている ⇒ 啓発・広報:「市民いっせい雑がみ回収グランプリ」を実施し、古紙のうち判別が判りにくい雑がみの回収強化 【事例2】現状:家庭ごみの全重量のうち、約半分が生ごみ ⇒ 問題点:食べられる食品や生ごみが水を含んだ状態で捨てられている ⇒ 啓発・広報:「3切り(使い切り・食べ切り・水切り)」に関するチラシ(4万部)を作成・配布 この計画の策定・管理は、法律上の義務として市に課せられており、市が直接携わることで、一般廃棄物の処理・管理責任を果たす必要があるため、市が各事業の適正な進行管理を行っていくこととします。

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	産業廃棄物対策室
課長名	井上
施策番号	
VI - 3 - (1) - ③	
事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
コスト	(人件費備考)

事業概要					
事業名	産業廃棄物資源化・減量化技術等支援事業				事業費備考
事業概要	北九州市内で発生する産業廃棄物の減量化及び適正処理推進のため、処理業者や排出事業者を対象とした講習会を開催します。				人件費
コスト	25年度当初予算額	25年度執行額	目金の金額	課長	0.00 人
	500 千円	521 千円	350 千円	係長	0.02 人
				職員	0.02 人

【Action】改善

課題	見直し内容
H23年度の評価結果を受けての課題	市内の許可処理業者や多量排出事業者に対する講習会周知文の送付については、目標値をほぼ達成しており、この状態を継続していきたいと考えています。今後は、この活動を続けることで、市内2,000事業者の40%以上の講習会参加という成果目標の達成を目指します。
	市内2,000事業者への講習会周知文の送付について、事業費は現状を維持しつつ、100%の達成率を目指します。講習会参加率40%以上(毎年度800人)という目標の達成を目指します。

【Plan】計画

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	順調
	産業廃棄物の処理業者や排出事業者	市内における産業廃棄物の処理等に関する情報を調査・提供することで、市内で発生する産業廃棄物の減量化・適正処理に関する意識の向上を目指します。			
代表的な成果指標	指標	25年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	産業廃棄物の処理業者や排出事業者を対象とした講習会への参加人数(単年度)	582 人	800 人	407 人	講習会への参加人数は前年度より減少していますが、平成22年の廃棄物処理法の改正に伴い、県の許可を受けることが可能となり、処理業者が県の講習会を受講していることが考えられます。今後、講習内容を検討し、参加者の増加を図ります。 また、講習会を通じて処理業者の意識啓蒙に努め、優良産廃処理業者の育成を目指しています。 25年度の認定件数は目標を達成しており、産業廃棄物の減量化・適正処理に関する意識の向上が図られていることから、順調としました。
	産業廃棄物の減量化及び適正処理に関する効果的な情報発信を行うための講習会を開催し、処理業者や排出事業者の意識の向上を図ります。過去の実績等を考慮し、市内2,000事業者のうち40%以上の参加を目標とします。	496 人		50.9 %	
	(最終目標と目標年度) 800人(毎年度)				
優良産廃処理業者件数(単年度)	11 件	3 件	5 件		
	優良産廃処理業者を育成するため、本講習会において処理業者の意識の向上を図ります。	7 件		166.7 %	
	(最終目標と目標年度) 3件(毎年度)				

【Do】実施

活動計画	活動の状況	順調			
どうやって目的を達成するか	産業廃棄物の減量化・適正処理に関する講習会への参加率向上を図るため、市内に所在する許可処理業者及び多量排出事業者に対して講習会周知文を送付します。	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック			
活動指標	指標	25年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	講習会周知文を送付した許可処理業者及び多量排出事業者数	1,986 事業者	2,000 事業者	1,922 事業者	講習会周知文の送付事業者数は目標値の90%以上を達成できており、順調としました。
	市内の全ての許可処理業者及び多量排出事業者に対して講習会周知文を送付し、参加人数の増加を目指します。	1,925 事業者		96.1 %	
				%	
			%		

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点
	活動は予定どおり行いましたが、一部の成果は目標に届きませんでした。しかしながら、市内に所在する許可処理業者及び多量排出事業者約2,000事業者に対して講習会周知文を送付し、廃棄物の減量化及び適正処理推進に対する意識啓発は十分に言うことができたと判断しています。また、優良産廃処理業者については、5事業者の認定を行い、順調に認定業者を育成しています。
「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	講習会の開催業務は外部委託としていますが、約50万円の委託費で、およそ500人の許可処理業者及び多量排出事業者へ必要な情報を伝達できており、事業の経済性・効率性は高いと考えています。

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

				担当局	環境局	
				担当課	環境未来都市推進室	
				課長名	山本	
事業名	北九州エコタウン事業				施策番号	
					VI - 3 - (2) - ①	
事業概要	資源循環型社会の実現に向けて、環境産業の集積化とリサイクル技術開発の拠点化を図るため、北九州エコタウン事業を推進します。				<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他	
					()	
コスト	25年度当初予算額	25年度執行額	(事業費備考)	人件費	目金の金額	課長 0.05 人
	12,025 千円	11,277 千円			4,575 千円	係長 0.10 人 職員 0.40 人

【Action】改善			
課題	H23年度の評価結果を受けての課題	H23年度は投資額・視察者いずれも順調であり、今後も更なる増加を目指します。	見直し内容 エコタウン事業への関心を高めるためパンフレットやDVDを使ったPRIにより力を入れ、視察者増加のために見学しやすい環境の整備を行います。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象 (誰を、何を)	目指す状態 (どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	エコタウンを中心とした市内環境関連企業及び研究機関等	エコタウンを基盤として、本市環境産業の新たな展開を図り、アジアの次世代資源循環型拠点を目指します。また、エコタウンへの視察者数の増加を目指します。			
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	上段: 23年度実績 下段: 24年度実績	25年度目標	25年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由
	エコタウン事業による投資額 (単年度)	8 億円	5 億円	9 億円	
	エコタウン事業の高度化を図るためには新たな投資が必要であり、投資額を成果指標として設定します。 (最終目標と目標年度) 毎年5億円	17 億円		180.0 %	
	北九州エコタウンへの視察者数 (単年度)	100,576 人	100,000 人	100,643 人	
エコタウン事業への関心の高さやビジターズインダストリーという観点から、視察者数を成果指標として設定します。 (最終目標と目標年度) 毎年10万人	103,867 人	100.6 %			

活動計画	北九州市環境産業推進会議の新エコタウン部会においてエコタウン事業の高度化・高付加価値化に向けた会合を重ねると共に、新エコタウン部会の下にエコタウン高度化連携研究会やリウムイオン電池リユース・リサイクル研究会などを設置し社会システム構築に向けた研究や実証研究等を継続して行っていきます。また、視察についても、エコタウン企業を視察できる定型コースを設定するなど、視察者が見学しやすい環境を整備していきます。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	順調	
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	上段: 23年度実績 下段: 24年度実績	25年度目標	25年度実績 (達成率)	活動の状況 評価理由
	実証研究数	17 社	12 社	12 社	
実証研究が増加することにより、リサイクル産業の高度化や育成を図ることができるため、実証研究の数を活動指標として設定します。	12 社	100.0 %		平成25年度実績で目標を達成していることから、「順調」としました。	
				%	

【Check】評価 (分析)	
分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点</p> <p>エコタウンへの視察者数や施設への投資額も順調に伸びています。</p> <p>「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点</p> <p>海外からの視察者が伸び悩む中、視察者数も昨年度同様の数に達し、投資額も伸びており、経済性・効率性の面でもかなりの効果がありました。</p>

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

事業概要					担当局	環境局
					担当課	環境未来都市推進室
事業名 次世代資源循環型産業拠点形成推進事業					課長名	山本
					施策番号	
事業概要 環境未来技術開発助成事業に「事業化チャレンジ枠」を設け、事業化目前の研究開発により手厚い支援を行うことにより、本市環境産業の新たな展開を図り、本市の新成長戦略にも位置付けられる次世代資源循環型産業拠点の形成を推進し、ひいては市内経済の活性化や、税収の確保、雇用の拡大等に繋げていきます。					事業手法 <input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()	
コスト	事業費	25年度当初予算額	25年度執行額	(事業費備考)	目安の金額	課長 0.02 人 係長 0.05 人 職員 0.10 人
		20,000 千円	20,000 千円		1,480 千円	(人件費備考)

【Action】改善			
課題	H23年度の評価結果を受けての課題	環境未来技術開発助成事業における平成23年度末時点の事業化数は14件、平成23年度の採択件数も17件と、成果指標・活動指標ともに目標を達成しており、事業は順調に進んでいますが、新成長戦略の推進に向け、新たに「事業化チャレンジ枠」を設け、さらに取り組みを進めていく必要があります。	見直し内容 —

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を) 市内中小企業	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 事業化目前の研究開発への支援により、次世代資源循環型産業拠点の形成を推進し、市内経済の活性化、税収の確保、雇用の拡大等に繋がります。	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	順調
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	上段: 23年度実績 下段: 24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	本助成事業で助成した研究開発の事業化数(累計事業化チャレンジ枠分)	—	1 件 (H27年度末)	— 件	平成25年度が事業初年度のため、現時点では事業化数の評価はできませんが、初年度から多くの申請があり、近年中の事業化が見込まれる有望な研究開発支援に結びついていることから、「順調」としました。
	本事業は、事業化を目指した実証研究等に対する助成であるため、「事業化数」を成果指標に設定します。	—		%	
	(最終目標と目標年度) 2件(32年度末)				
(最終目標と目標年度)			%		

活動計画	どうやって目的を達成するか		活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	順調
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	上段: 23年度実績 下段: 24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	本助成事業の採択件数(単年度: 事業化チャレンジ枠分)	—	1 件	2 件	平成25年度実績で目標を達成していることから、「順調」としました。
	上記活動計画の目安とするため、本助成事業の採択件数を活動指標として設定します。	—		200.0 %	
			%		

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点</p> <p>成果の状況、活動の状況とも目標を達成していることから、いずれも「順調」としました。当事業を進めることで、市内中小企業等に技術開発の機会を提供することができ、地域産業の活性化につながっていると考えています。</p> <p>「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点</p> <p>上記のとおり、市内環境産業の振興・集積につながっていることから、「順調」としました。</p>

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

				担当局	環境局
				担当課	環境未来都市推進室
				課長名	山本
事業概要				施策番号	
				VI - 3 - (2) - ②	
事業名	環境未来技術開発助成事業				
事業概要	循環型経済社会及び低炭素社会の実現に向け、市内における先進的かつ実現性の高い環境技術の研究を支援することにより、環境産業の振興を図り、我が国ひいては世界的な環境分野の課題の解決に先導的役割を果たすことを目指します。				事業手法 <input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
コスト	事業費	25年度当初予算額	25年度執行額	(事業費備考)	人件費
		53,818 千円	50,745 千円		目安の金額 4,595 千円 課長 0.03 人 係長 0.20 人 職員 0.30 人 (人件費備考)

【Action】改善

課題	H23年度の評価結果を受けての課題	平成24年度8月調査時点における事業化数は14件であり、また、平成24年度も12件の採択をしていることから、目標の達成に向けて事業は順調に進んでいると考えます。 申請を受ける研究テーマによりますが、採択に際しては予算の範囲内で事業化の実現性の高い優れた研究を吟味することが課題であると考えます。	見直し内容	事業費全体としては縮小しますが、希少金属(レアメタル)・資源のリサイクルや新エネルギー・省エネルギー関連技術における事業化目前の研究開発を支援するため、新たに「上限額:2,000万円、助成期間:1年間、助成率2/3」という枠組みの「事業化チャレンジ枠」を設け、さらに事業化の促進を図ります。
----	-------------------	--	-------	---

【Plan】計画

【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	順調
	市内中小企業等	新規性、独自性に優れ、かつ実現性の高い環境技術の実証実験等に対して、その研究開発費の一部を助成することにより、市内中小企業等に技術開発の機会を提供するとともに、本市における環境分野の集積を図ります。		成果の状況		
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由	
	本助成事業で助成した研究開発の事業化数(累計:事業化チャレンジ枠分を除く)	14 件	21 件	集計中(平成26年9月末見込み) 件	平成25年度実績については、集計中ですが、平成24年度まで目標を上回る成果を上げてきていることから、「順調」としました。	
	本事業は、事業化を目指した実証研究等に対する助成であるため、「事業化数」を成果指標に設定します。 (最終目標と目標年度) 28件(32年度末)	20 件				%
	(最終目標と目標年度)			%		

活動計画	どうやって目的を達成するか	平成25年度も、市内中小企業等に技術開発の機会を提供するとともに、本市における環境分野の集積を図るため、本助成制度を引き続き実施します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	順調
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由
	本助成事業の採択件数(単年度:事業化チャレンジ枠分を除く)	17 件	10 件	11 件	平成25年度実績で目標を達成していることから、「順調」としました。
	上記活動計画の目安とするため、本助成事業の採択件数を活動指標として設定します。	12 件			
				%	

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	成果の状況、活動の状況とも目標を達成していることから、いずれも「順調」としました。 当事業を進めることで、市内中小企業等に技術開発の機会を提供することができ、地域産業の活性化につながっていると考えています。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点	上記のとおり、事業化数は目標どおり年々増加し、市内環境産業の振興・集積につながっていることから、「順調」としました。

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

事業概要					担当局	環境局
					担当課	循環社会推進課
北九州市民環境パスポート事業					課長名	敷田
					施策番号	
事業概要	レジ袋発生抑制(リデュース)を図るとともに、市民に楽しみながら環境活動に参加できるきっかけを提供するため、買物の際に参加店でレジ袋を断るとポイントシールがもらえ、20ポイント貯まると参加店で50円の割引券として利用できる「カンパスシール事業」を実施します。				事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
	コスト	25年度当初予算額	25年度執行額	(事業費備考)		目安の金額
	12,780 千円	11,015 千円			3,575 千円	(人件費備考)

【Action】改善			
課題	H23年度の評価結果を受けての課題	平成26年度末で終了予定としているカンパスシール事業について、事業終了後どのような形でこの成果を継続、向上できるか検討します。	見直し内容 カンパスシール事業終了後について、有識者や関係団体で構成する「北九州市民環境パスポート運営協議会」において、多数の市民、事業者へレジ袋削減の取組んでいただけたような制度を検討します。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	大変順調
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由
	カンパスシール等によるレジ袋お断り率(単年度)	23.9 %	27.0 %	29.3 %	カンパスシール事業に参加していた事業者のうち、レジ袋削減に向けた独自の対策(レジ袋有料化やポイント制)に移行してきた事業者が増え、市民においてもマイバッグ持参が定着してきたためと考えます。
	レジ袋のリデュースによるCO2削減効果に結びつくとともに、市民の身近な環境活動への参加状況を表す指標とします。	23.9 %		108.5 %	
	(最終目標と目標年度) 各店舗の独自のサービス(ポイント加算や有料化)を含んだお断り率としてH26年度に27%			%	
(最終目標と目標年度)			%		

活動計画	どうやって目的を達成するか	継続して積極的な広報活動を行い、市民の環境活動への参加を働きかけることにより、平成26年度までに各事業者で独自のサービス(ポイント加算や有料化)を含めたお断り率として27%を目指して取り組んでいきます。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	順調
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由
	広報活動の実施	9 回	目標設定は ありません	11 回	市政だよりや新聞広告、ポスター、チラシやホームページなどあらゆる広報媒体を用いて広報活動を実施しました。
	市民の環境活動への参加を働きかけるために、積極的な広報活動を行います。	11 回		%	
				%	
			%		

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点</p> <p>事業開始時は、9.5%だったレジ袋お断り率は、目標の27%を超えて推移しています。カンパスシール参加の事業者において、独自制度の導入が進んでおり、レジ袋削減を目的としたカンパスシール事業については、一定の成果をあげていると考えます。</p> <p>【経済性】(同成果を低コストで) 【効率性】(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点</p> <p>カンパスシール事業は、参加店舗のシール購入代金を原資にしており、本市が担う部分は運営・参画支援の部分であるため、経済性・効率性は高いと考えます。</p>

PDCAチェックシート(平成 25 年度実績評価)

事業概要				担当局		環境局		
				担当課		循環社会推進課		
				課長名		敷田		
事業名	3R活動推進事業						施策番号	
							VI - 3 - (3) - ③	
事業概要	市内の一般廃棄物大量排出事業者や大規模事業所等の所有者等に対する資源化・減量化計画書の提出による一般廃棄物の減量化・資源化、適正処理の推進や、個人、市民団体、事業者が行う3R活動を奨励する3R活動推進表彰など、廃棄物の発生抑制(Reduce)・再利用(Reuse)・再生使用(Recycle)の3R(スリーアール)活動を推進します。						事業手法	
							<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()	
コスト	事業費	25年度当初予算額	25年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.05人	
		1,176 千円	625 千円			7,325 千円	係長 0.15人 職員 0.70人	(人件費備考)

【Action】改善

課題	H23年度の評価結果を受けての課題 H23年度は、受賞団体10団体のうち8団体が子どもの団体や学校関係であり、子ども達の日常生活に3Rが定着してきており、今後の活動の広がりが窺われました。また、条例対象事業所については、訪問調査を実施し、他事業所の取り組み等を紹介することにより、3R意識が高まってきていると考えています。 しかしながら、全国的にみると3R活動の認知度はまだ低いことから、継続的に啓発活動に努めていきます。	見直し内容	3R活動に対する意識の向上と、3R活動の推進を図るため、3R活動推進表彰を継続実施します。 また、一般廃棄物大量排出事業者や大規模事業所等リサイクル率の向上を図るため、引き続き資源化・減量化計画書提出対象事業所の全事業所に提出を求めるとともに、訪問調査を行います。
-----------	---	--------------	---

【Plan】計画

【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック		順調
	市民、企業	3R活動推進表彰の実施や事業者に対する減量化・資源化に関する計画書の提出等を通じ、3R活動に対する意識の向上やリサイクル率の向上を図ります。					
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)		上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	成果の状況評価理由	
	事業所から排出される一般廃棄物の資源化率の向上		-	単年度の目標設定はありません	-	計画の中間目標年度(H27)に、達成率等を精査する予定 活動指標などから、市民や事業所における3R活動の拡大が見られるため、3R意識の向上が進んでいると考えます。	
	事業所に係る資源化・減量化計画書を作成することで、各事業所から発生する廃棄物の減量化・資源化や適正処理を定期的に点検し、廃棄物の減量化・資源化率の向上を図ります。		-				
	(最終目標と目標年度)H32年度に事業系ごみの8%削減、及び資源化物(事業系)20%増(対H21年度比)		-	%			
	ごみの減量やリサイクルなどの3R活動の推進		-	-			
廃棄物の発生抑制(Reduce)・再利用(Reuse)・再生使用(Recycle)の3R(スリーアール)活動を積極的に取り組んでいる個人、市民団体、事業者を表彰し、これらの活動を奨励します。		-	%				
(最終目標と目標年度)		-	%				

活動計画	どうやって目的を達成するか 事業所から排出される一般廃棄物のリサイクル率の向上を図るため、提出対象事業所の全事業所に資源化・減量化計画書の提出を求めるとともに、訪問調査を行います。 また、3R活動に対する意識の向上を図るため、3R活動推進表彰を実施します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	順調			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)		上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	活動の状況評価理由	
	事業所から排出される一般廃棄物の適正処理の点検		25 団体	目標設定はありません	33 団体	3R活動に応募する団体数も増加し、市民生活において環境活動が定着しつつあります。また、事業所においても、同様に3R意識が高まっていると考えます。	
	資源化・減量化計画書の提出に加え、必要に応じて訪問調査を行います。		32 団体		%		
	3R活動推進表彰に関する市民への広報活動		10 団体	目標設定はありません	9 団体		
	募集時に、各区・市民センター等へのリーフレット配布のほか、かえるプレス等で3R活動推進賞受賞団体を紹介します。		6 団体		%		

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	H25年度は、3R(リデュース・リユース・リサイクル)各部門において団体を受賞し、市民の日常生活に3Rの活動が定着してきており、今後の活動の広がりが窺われました。また、条例対象事業所については、訪問調査を実施し、他事業所の取り組み等を紹介することにより、3R意識がさらに高まっていると考えています。
	「経済性」 (同成果を低コストで) 「効率性」 (同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	条例対象事業所に対する減量化・資源化に関する計画書の提出については、市内事業系一般廃棄物排出の主である大量排出事業所や大規模事業所等の事業者が、計画書作成により廃棄物排出の振り返りを行う機会となっており、事業者への廃棄物適正処理の啓発や3R活動の周知・普及の手段として、費用対効果は高いと考えています。また、3R活動推進表彰については、表彰式を単独で行わず、市主催事業(エコライフステージ)の一環として行うなど、事業を遂行するにあたって、コスト削減に努めています。

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	環境未来都市推進室
課長名	梶原
施策番号	VI - 4 - (1) - ①
事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
コスト	(人件費備考)

事業概要				
事業名	生物多様性戦略推進事業			
事業概要	都市と自然の共生を基本理念とし、「都市のための自然、自然のなかの都市」の実現のため、豊かな自然環境と生物の多様性を保ちつつ、新たな産業都市として持続的な発展が可能な都市づくりを目指します。			
コスト	25年度当初予算額 19,788 千円	25年度執行額 18,289 千円	(事業費備考)	目金の金額 11,150 千円
			人件費	課長 0.10 人 係長 0.25 人 職員 1.00 人

【Action】改善			
課題	H23年度の評価結果を受けての課題 自然環境保全を推進に当って、活動の周知や啓発等広報活動を継続して行う必要があります。	見直し内容	自然環境保全活動に係る事業の効率性を高めるため、生物多様性戦略推進事業として4事業を統合しました。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	順調
	北九州市の自然環境	多様な自然の保全に努め、都市と自然が共生したまちを目指します。			
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由
	自然環境保全活動参加者数(イベント等の延べ参加者数)	約2,000 人	約2,000 人	約2,000 人	自然ネットだより等を活用し、自然環境保全活動の周知を行った結果、多くの人に参加してもらうことができました。また、環境首都100万本プロジェクトによる緑化も順調に進んでいます。
	多様な自然環境を保全するためには、市民・市民団体との協力が欠かせませんが、「北九州市自然環境保全ネットワークの会」の活動を促進し、自然ネットだより等の活用により、会員相互の情報の共有を行うことで、様々な保全活動への参加者数を増やします。	約2,000 人		100.0 %	
	(最終目標と目標年度)様々な保全活動に対し2,000人/年間の参加を目指します。	352,916 本	402,000 本	497,694 本	
環境首都100万本植樹プロジェクト推進	418,640 本	123.8 %			
市民をはじめ、企業やNPO、行政などさまざまな主体が市内各地に植樹活動を行い、緑化を促進することで都市と自然が共生するまちを創ります。 (最終目標と目標年度)平成35年度までに累計で100万本植樹します。					

活動計画	どうやって目的を達成するか	・市民をはじめ、企業やNPO、行政などさまざまな主体が市内各地に植樹活動を行い、緑化を促進します。 ・自然環境保全に取り組む市民・地域団体等に助成(毎年10団体程度)することで、自主的な自然環境保全活動の推進を図ります。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	順調
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由
	環境首都100万本植樹プロジェクト植樹本数	100,247 本	67,000 本	79,054 本	さまざまな主体による植樹活動が行われ、市内の緑化が進んでいます。また、自然環境保全活動を行う団体への助成も一定数行い、その活動の推進を図りました。
	市民をはじめ、企業やNPO、行政などさまざまな主体が市内各地に植樹活動を行い、緑化を促進することで都市と自然が共生するまちを創ります。	65,724 本		118.0 %	
	自然環境保全活動の支援	8 団体	10 団体	10 団体	
自然環境保全の分野では市民、地域団体の自主的な活動の活性化が不可欠ですが、資金不足などの問題から活動の開始に踏み切れず、また活動の継続が難しくなっている団体などに対して、毎年一定数(10団体程度)の団体に助成することで、活動の推進が図れます。	14 団体	100.0 %			

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点</p> <p>近年、自然環境への意識の高まりにより、様々なNPOや市民ボランティア団体が自然環境保全活動を行っています。しかし、資金不足や人材不足により、活動の開始に踏み切れない団体等があるため、市の支援により、活発化を図る必要があると考えます。また、様々な地域、分野で自然環境保全活動を実施している団体に、助成することで、多様な自然環境保全活動を実施できました。また、市民に対しての啓発活動に繋がりました。あわせて、環境首都100万本プロジェクトでは、記念樹の配布や市民参加の植樹会の開催により、緑化(環境)に対する市民意識の向上に努めました。</p> <p>【経済性】(同成果を低コストで) 【効率性】(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点</p> <p>自然環境保全に関する活動は、市民とりわけ地域団体の自主的な活動が不可欠であり、市が、直接雇用や業者を通じて、保全活動を行うのではなく、市民やボランティア団体が植樹などの自然環境保全活動をすることで、コスト削減に繋がります。</p>

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	環境未来都市推進室
課長名	梶原
施策番号	
VI - 4 - (1) - ②	
事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金
	<input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金
	<input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理
	<input type="checkbox"/> その他
()	
(人件費備考)	

事業概要					
事業名	生物多様性戦略推進事業				事業費備考
	都市と自然の共生を基本理念とし、「都市のための自然、自然のなかの都市」の実現のため、豊かな自然環境と生物の多様性を保ちつつ、新たな産業都市として持続的な発展が可能な都市づくりを目指します。				人件費
コスト	25年度当初予算額	25年度執行額	目金の金額	課長	0.10 人
	19,788 千円	18,289 千円	11,150 千円	係長	0.25 人
				職員	1.00 人

【Action】改善		
課題	H23年度の評価結果を受けての課題 自然環境保全を推進に当って、活動の周知や啓発等広報活動を継続して行う必要があります。	見直し内容 自然環境保全活動に係る事業の効率性を高めるため、生物多様性戦略推進事業として4事業を統合しました。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	順調
代表的な成果指標	北九州市の自然環境	多様な自然の保全に努め、都市と自然が共生したまちを目指します。	25年度実績 (達成率)	約2,000 人	自然ネットだより等を活用し、自然環境保全活動の周知を行った結果、多くの人が参加してもらうことができました。また、環境首都100万本プロジェクトによる緑化も順調に進んでいます。
	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	約2,000 人	
	自然環境保全活動参加者数(イベント等の延べ参加者数)	約2,000 人	約2,000 人	100.0 %	
	多様な自然環境を保全するためには、市民・市民団体との協働が欠かせませんが、「北九州市自然環境保全ネットワークの会」の活動を促進し、自然ネットだより等の活用により、会員相互の情報の共有を行うことで、様々な保全活動への参加者数を増やします。 (最終目標と目標年度)様々な保全活動に対し2,000人/年間の参加を目指します。	約2,000 人	402,000 本	497,694 本	
環境首都100万本植樹プロジェクト推進	352,916 本	402,000 本	123.8 %		
市民をはじめ、企業やNPO、行政などさまざまな主体が市内各地に植樹活動を行い、緑化を促進することで都市と自然が共生するまちを創ります。 (最終目標と目標年度)平成35年度までに累計で100万本植樹します。	418,640 本				

活動計画	どうやって目的を達成するか	・市民をはじめ、企業やNPO、行政などさまざまな主体が市内各地に植樹活動を行い、緑化を促進します。 ・自然環境保全に取り組む市民・地域団体等に助成(毎年10団体程度)することで、自主的な自然環境保全活動の推進を図ります。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	順調
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績 (達成率)	活動の状況 評価理由
	環境首都100万本植樹プロジェクト植樹本数	100,247 本	67,000 本	79,054 本	さまざまな主体による植樹活動が行われ、市内の緑化が進んでいます。また、自然環境保全活動を行う団体への助成も一定数行い、その活動の推進を図りました。
	市民をはじめ、企業やNPO、行政などさまざまな主体が市内各地に植樹活動を行い、緑化を促進することで都市と自然が共生するまちを創ります。	65,724 本		118.0 %	
	自然環境保全活動の支援	8 団体	10 団体	10 団体	
自然環境保全の分野では市民、地域団体の自主的な活動の活性化が不可欠ですが、資金不足などの問題から活動の開始に踏み切れず、また活動の継続が難しくなっている団体などに対して、毎年一定数(10団体程度)の団体に助成することで、活動の推進が図れます。	14 団体		100.0 %		

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点</p> <p>近年、自然環境への意識の高まりにより、様々なNPOや市民ボランティア団体が自然環境保全活動を行っています。しかし、資金不足や人材不足により、活動の開始に踏み切れない団体等があるため、市の支援により、活発化を図る必要があると考えます。また、様々な地域、分野で自然環境保全活動を実施している団体に、助成することで、多様な自然環境保全活動を実施できました。また、市民に対しての啓発活動に繋がりました。あわせて、環境首都100万本プロジェクトでは、記念樹の配布や市民参加の植樹会の開催により、緑化(環境)に対する市民意識の向上に努めました。</p> <p>【経済性】(同成果を低コストで) 【効率性】(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点</p> <p>自然環境保全に関する活動は、市民とりわけ地域団体の自主的な活動が不可欠であり、市が、直接雇用や業者を通じて、保全活動を行うのではなく、市民やボランティア団体が植樹などの自然環境保全活動をすることで、コスト削減に繋がります。</p>

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

				担当局	環境局
				担当課	環境未来都市推進室
				課長名	梶原
事業概要				施策番号	
				VI - 4 - (1) - ③	
事業名	響灘ビオトープ運営等事業				
事業概要	本市の豊かな自然環境の保全など、様々な自然分野の取り組みを推進するため、生物多様性基本法に規定される地域戦略として策定した「北九州市生物多様性戦略」の主要プロジェクトに位置づけている響灘ビオトープの運営管理等を行う事業です。絶滅危惧種など希少な動植物が500種類以上も生息する生物の楽園を保全しつつ、市民に見て触れて、自然生態系の仕組みや生物多様性の重要性などが学習できる施設です。				事業手法 <input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
コスト	25年度当初予算額	25年度執行額	(事業費備考)	人件費	目金の金額
	56,140 千円	51,830 千円			課長 0.10 人 係長 0.25 人 職員 0.40 人 (人件費備考)

【Action】改善			
課題	H23年度の評価結果を受けての課題	平成24年度開始の事業のため、平成23年度の評価結果を受けての課題はなし。	見直し内容
			平成24年度開始の事業のため、平成23年度の評価結果を受けての見直し内容はなし。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	順調
	響灘ビオトープ	緑の拠点としての響灘ビオトープを自然環境教育の場として提供するため、必要な運営内容の整備(エコツアーガイド運営、イベント企画等)を行い、生物多様性に富む「都市と自然の共生するまち」を実現します。			
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由
	生物多様性に富む「都市と自然の共生するまち」の実現	設定なし	単年度目標なし	-	イベントの実施やガイドツアーの開催など、市民の環境に対する意識を高めるきっかけとなる場を提供できたことから、順調と判断しました。
	緑の拠点として自然とのふれあいの場、自然環境教育の場としてビオトープを活用し、市民の環境に対する意識を高めます。 (客観的に判断できる数値内容については今後検討します。)	設定なし			
	(最終目標と目標年度) 生物多様性に富む「都市と自然の共生するまち」の実現			%	
(最終目標と目標年度)			%		

活動計画	どうやって目的を達成するか	平成24年10月のオープンから間もないため、第一に響灘ビオトープの運営管理体制を整えます。また、希望する来園者にガイドツアーを行うことで、自然環境教育の場を提供します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	大変順調
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由
	響灘ビオトープでのガイドツアーへの参加人数	設定なし	4,000 人	6,457 人	活動指標に設定した響灘ビオトープでのガイドツアーへの参加人数が当初の予定を大幅に上回る数での参加者があったことから、大変順調と判断しました。
	来園者に対し、生物多様性の重要性について学べるガイドツアーを行っており、その参加人数を指標としました。1日に15人程度がガイドツアーに参加することを見込んでいます。	設定なし		161.4 %	
				%	
			%		

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点</p> <p>響灘ビオトープがオープンし、ガイドツアーの参加人数は当初の目標を上回る参加がありました。また、環境学習に関する様々なイベントも開催しました。そのため、緑の拠点としての響灘ビオトープを自然環境教育の場として提供することができたため、順調と考えています。</p> <p>【経済性】(同成果を低コストで) 【効率性】(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点</p> <p>平成25年度は、オープン直後ということもあったため、廃棄物処分場とビオトープ保全に知見のある業者に運営委託を行いました。今後は、民間活力の導入による経済性・効率性の向上のため、平成26年度より指定管理制度を導入することとなりました。</p>

PDCAチェックシート(平成25年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	監視指導課
課長名	二宮
施策番号	
VI - 4 - (2) - ①	
事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金
	<input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金
	<input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理
	<input type="checkbox"/> その他
()	
(人件費備考)	

事業概要						
事業名	不法投棄防止事業				事業費	
	市内の産業廃棄物の不法投棄の未然防止や拡大防止を目的とし、監視パトロール、監視カメラ整備、市民通報員の活用により、早期発見・早期撤去を進めるとともに、警察と連携して実行者へ厳しく対処します。				18,902 千円	
事業概要	25年度当初予算額				25年度執行額	
	18,902 千円				15,034 千円	
コスト	事業費				目安の金額	
	18,902 千円				15,550 千円	
			課長		0.20 人	
			係長		1.10 人	
			職員		0.30 人	

【Action】改善

課題	H23年度の評価結果を受けての課題	不法投棄件数は、経年的に減少傾向にあるが、依然見られています。	見直し内容	今後も、監視パトロール、監視カメラ整備及び市民通報員の活用を継続し、不法投棄物の早期発見・早期撤去を進めていきます。
----	-------------------	---------------------------------	-------	--

【Plan】計画 **【Do】実施 → 【Check】評価**

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	大変順調	
	産業廃棄物の不法投棄	未然防止、早期発見及び拡大防止を図ります。	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック		
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由
	廃棄物の不法投棄量(単年度)	112 t	160 t以下	90 t	不法投棄処理量は、経年的に減少している。
	市内で不法投棄された廃棄物の量。監視パトロール、監視カメラ設置、市民通報員の活用、警察との連携等の結果、廃棄物の不法投棄が減少したことを表す指標として、不法投棄量を設定しました。	96 t		143.8 %	
	(最終目標と目標年度)160t以下 平成25年度				
(最終目標と目標年度)			%		

活動計画 **活動の状況** **順調**

活動計画	どうやって目的を達成するか	不法投棄の未然防止及び早期発見のため、監視パトロールを実施します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	順調
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由
	監視パトロールの実施回数	309 回	320 回	319 回	不法投棄監視パトロールは、予定の回数を概ね達成した。
	不法投棄の未然防止及び早期発見のため、夜間(概ね月2回・3班:84回)、土日(概ね月1回・3班:36回)及び早朝・深夜(民間警備会社:200回)に、不法投棄されやすい箇所を中心に市内全域のパトロールを実施します。(回数は平成25年度計画)	319 回		99.7 %	
			%		

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、 外部要因などの視点	市による不法投棄物の処理量は、年々減少しており、夜間、土・日曜日及び早朝・深夜の不法投棄監視パトロールによる効果が現れたものと考えます。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	市内各所にある不法投棄監視重点地区をパトロールしており、巡回地区が広範で、コスト削減は困難です。

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

事業概要				担当局	環境局				
				担当課	環境保全課				
				課長名	作花				
事業名	大気汚染常時監視システム整備事業			施策番号					
				VI - 4 - (2) - ①					
事業概要	大気汚染防止法22条の規定に基づく環境大気汚染状況の常時監視を行うため、公害監視センター及び市内21ヶ所に設置した常時監視測定局から成る測定網を整備します。調査結果を本市の環境保全の推進に役立てるとともに、大気環境の現状把握に努めます。			事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他				
					()				
コスト	事業費	25年度当初予算額	25年度執行額	(事業費備考)	人件費	目金の金額	課長	0.05 人	
		10,584 千円	10,584 千円			6,075 千円	係長	0.10 人	
								職員	0.60 人

【Action】改善			
課題	H23年度の評価結果を受けての課題	平成23年度は計画通りに事業が進捗しました。平成25年度も計画どおり測定網を整備し、大気環境の現状把握に努めます。今後は事業内容を維持しながら、費用を削減することが課題であると考えます。	見直し内容 計画通り測定網を整備するとともに、費用削減に向け、更新計画の見直しを行います。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	順調
	市民の健康	大気環境の現況を確認することで、市民の健康を保護し、生活環境を保全します。			
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由
	大気環境の現状把握	大気環境の現状把握	大気環境の現状把握	大気環境の現状把握	計画どおり測定環境を整備し、大気環境の現状把握ができました。
	二酸化いおう等による大気汚染の状況把握のため、連続測定を実施し、大気環境の現状把握に努めます。	大気環境の現状把握		- %	
	(最終目標と目標年度) 大気環境の現状把握				
(最終目標と目標年度)			%		

活動計画	どうやって目的を達成するか ・測定局5局の借り入れ及び保守(H20-26) ※大気汚染常時監視システムの一括更新については、別事業にて、平成25年度に更新設計、平成26年度に更新作業、平成27年度より新システムの稼働を計画しています。また、当該別事業では、システム更新までの間、リース期間の終了した公害監視センター及び測定局16局の監視システムの保守を行っています。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	順調	
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績 (達成率)	活動の状況 評価理由
	大気汚染常時監視の測定環境の整備	測定の実施	測定の実施	測定の実施	更新計画に基づき、効率的に測定環境を整備し、正確な測定を継続実施しました。
	大気汚染常時監視システムについて、更新計画に基づき、効率的に測定環境を整備し、正確な測定を継続実施します。	測定の実施		- %	
			%		

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 活動については、予定通り調査・測定(環境モニタリング)を実施しました。成果については、測定結果や知見の集積が進み、大気環境の現状が概ね良好であることが確認できました。
	「経済性」 (同成果を低コストで) 「効率性」 (同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点 大気汚染常時監視システムについて、更新計画を策定し、支出の平準化を図るとともに、総額を抑制するなど適切な支出に努めています。

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

事業概要					担当局	環境局
					担当課	環境保全課
事業名 環境対策事業					課長名	作花
					施策番号	
事業概要 環境基本法等の環境法令や公害防止条例に基づき、大気汚染、水質汚濁、騒音振動等の監視測定(環境モニタリング)等を行い現況把握します。その結果に基づき、本市の環境保全施策を検討、実施し、環境の保全に努めます。					事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()	
コスト	事業費	25年度当初予算額	25年度執行額	(事業費備考)		目安の金額
		68,638 千円	63,014 千円		8,325 千円	(人件費備考)

【Action】改善

課題	H23年度の評価結果を受けての課題	環境モニタリングにより、測定結果や知見の集積が進み、大気、水質等の環境の状況は横ばいで推移、保全されており、従来の環境保全の取組みの有効性が確認されました。本事業は、環境基本法等の規定に基づき、必ず市が行う必要がありますが、経済性、効率性が求められています。	見直し内容	測定結果や知見を集積して、環境の保全に努めます。
-----------	-------------------	---	--------------	--------------------------

【Plan】計画

【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	順調
	市民の健康	良好な大気環境及び水質環境等を維持することで、市民の健康を保護し、生活環境を保全します。			
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	現状の環境を保全	現状の環境を保全	現状の環境を保全	現状の環境を保全	環境モニタリングにより、測定結果や知見の集積が進むとともに、環境が保全されていることから、従来の環境保全の取組みの有効性が確認されました。
	大気、水質、騒音、振動について、環境モニタリング計画を立て測定を実施し、現状の環境の保全に努めます。	現状の環境を保全	現状の環境を保全	- %	
	(最終目標と目標年度) 現状の環境を保全				
(最終目標と目標年度)			%		

活動計画	どうやって目的を達成するか	大気汚染、水質汚濁、騒音振動等の環境モニタリング等を実施します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	順調
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	大気環境モニタリングの実施	測定の実施	測定の実施	測定の実施	環境モニタリング計画どおり、測定を実施しました。
	大気、騒音、振動について、環境モニタリング計画を立て測定を実施します	測定の実施	測定の実施	- %	
	水環境モニタリングの実施	測定の実施	測定の実施	測定の実施	
河川、海域等の水質について、環境モニタリング計画を立て測定を実施します。	測定の実施	測定の実施	- %		

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	活動について、予定通り調査・測定(環境モニタリング)を実施しました。成果について、測定結果や知見の集積が進むとともに、環境が保全されていることから、従来の環境保全の取組みの有効性が確認されました。
	「経済性」 (同成果を低コストで) 「効率性」 (同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点	試料採取及び分析業務を民間業者に委託し、経費削減に努めています。

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

事業概要				担当局	環境局			
				担当課	環境未来都市推進室			
事業名 ノーマイカー普及戦略事業				課長名	梶原			
				施策番号		VI - 4 - (2) - ②		
事業概要 過度なマイカー利用を抑制し、環境にやさしい公共交通機関を積極的な利用を促進します。				事業手法				
				<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()		()		
コスト	事業費	25年度当初予算額	25年度執行額	(事業費備考)	人件費	目金の金額	課長	0.10 人
		500 千円	313 千円			4,650 千円	係長	0.20 人
							職員	0.20 人

【Action】改善			
課題	H23年度の評価結果を受けての課題	順調に参加者数、CO2削減量ともに増加しています。今後も継続し、普及を図ります。	見直し内容
			限られた予算の中で、引き続き普及を行います。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	順調
	市民、企業	過度なマイカー利用を抑制し、環境にやさしい公共交通機関を積極的な利用を促進し、自動車から排出されるCO2を削減します。			
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	上段: 23年度実績 下段: 24年度実績	25年度目標	25年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由
	ノーマイカーデー参加者数	74 社	前年度水準を維持	78 社	
	マイカー通勤者を主な対象として、参加企業数及び参加者の増加を図ります。 (最終目標と目標年度)	75 社		%	
	ノーマイカーデー実施によるCO2削減量(単年度)	71 t	前年度水準を維持	179 t	
ノーマイカーデー実施によるCO2削減量(単年度) (最終目標と目標年度)	120 t	%			

活動計画	どうやって目的を達成するか	横断幕の設置やチラシの配布によるPR、企業訪問などを行います。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	順調
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	上段: 23年度実績 下段: 24年度実績	25年度目標	25年度実績 (達成率)	活動の状況 評価理由
	PRの実施	市内企業への参加依頼	効果的なPRを実施します。	効果的なPRを実施	
	横断幕の設置やチラシの配布によるPR、企業訪問などを行います。	様々な媒体を利用した効果的なPRを行った		%	
				%	

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点</p> <p>H25年度はドライバーにPRするため主要道路の歩道橋に横断幕を10箇所設置しました。またその結果、CO2の削減量は増加しており、活動の状況は「順調」といえます。</p> <p>【経済性】(同成果を低コストで) 【効率性】(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点</p> <p>今後は、限られた予算の中でどのような手法がよいか内容を精査し、コストがかからずPRできる方法を継続していきます。</p>

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

事業概要				担当局	環境局
				担当課	環境未来都市推進室
事業名 エコドライブ推進事業				課長名	梶原
				施策番号	
事業概要 自動車から排出されるCO2削減のため、企業内でのエコドライブ活動を支援するとともに市民へのエコドライブの普及啓発を図ります。				<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()	
				コスト 事業費 25年度当初予算額 25年度執行額 765 千円 233 千円	

【Action】改善			
課題	H23年度の評価結果を受けての課題 順調に参加者数、CO2削減量ともに増加しています。今後も継続し、普及を図ります。	見直し内容	限られた予算の中で、引き続き普及を行います。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を) 市民、企業	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 自動車から排出されるCO2の削減		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック 順調
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	上段: 23年度実績 下段: 24年度実績	25年度目標	25年度実績 (達成率)	成果の状況評価理由 成果指標の目標値を達成しているため「順調」と評価しました。
	エコドラ北九州プロジェクト参加事業者のCO2削減量(単年度)	196 t	前年度水準を維持	240 t	
	参加事業者のCO2の削減量 (最終目標と目標年度)	216 t		%	
	(最終目標と目標年度)			%	

活動計画	どうやって目的を達成するか 市内事業者へのエコドライブ活動の普及のため、「エコドラ北九州プロジェクト」を実施し、エコドライブ活動の支援を行います。優良活動企業には市からの認定や表彰を実施します。また、市民向けに出前講演を行います。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック 順調		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	上段: 23年度実績 下段: 24年度実績	25年度目標	25年度実績 (達成率)	活動の状況評価理由 活動指標がともに目標値を達成しているため、「順調」と評価しました。
	エコドラ北九州プロジェクト参加事業者数	36 社	前年度水準を維持	52 社	
	エコドライブ活動に取り組む市内事業者数	40 社		%	
	市民向けのエコドライブの普及啓発(各活動の参加者の合計)	532 人	前年度水準を維持	985 人	
アイドリングストップ運動への参加者数、出前講演の受講者数	980 人	%			

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点</p> <p>エコドラ北九州プロジェクトの参加事業者が増加しCO2削減効果も向上しました。また表彰を実施することで事業者の意欲が高まりました。県警主催の「安全運転管理者講習会」での講演やエコアクション21取得予定事業者や取得事業者向け講習会での講演を行い、活動参加事業者の拡大を図りました。</p> <p>【経済性】(同成果を低コストで) 【効率性】(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点</p> <p>H19年度から5カ年計画で構築したモデル普及のため、必要最小限の経費でセミナー等を実施し普及啓発を行いました。</p>

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

				担当局	環境局	
				担当課	環境未来都市推進室	
				課長名	山本	
事業名	電気自動車等導入助成事業				施策番号	
					VI - 4 - (2) - ②	
事業概要	環境に優しい電気自動車やプラグインハイブリッド自動車の普及のため、市民や事業者の車両導入経費の一部を助成します。				■ 直営 ■ 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()	
コスト	25年度当初予算額	25年度執行額	(事業費備考)	人件費	目金の金額	課長 0.10 人
	5,000 千円	4,684 千円			8,900 千円	係長 0.40 人 職員 0.50 人 (人件費備考)

【Action】改善		
課題	H23年度の評価結果を受けての課題 電気自動車やプラグインハイブリッド自動車の普及は順調に進んでいますが、ガソリン車等と比べると普及台数が少ないため、継続して助成を実施する必要があります。	見直し内容 助成制度を継続して実施します。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を) 市内事業者	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 電気自動車等の購入費用の一部を助成し普及推進を図り、平成28年度までに、市内における電気自動車等の普及台数6,000台を目指します。		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック 順調
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由 平成25年度実績で、目標を達成していることから、「順調」としました。
	市内における電気自動車等の普及台数(累計)	80 台	700 台	730 台	
	市内の電気自動車等の普及台数 (最終目標と目標年度)平成28年度までに市内で6,000台	324 台		104.3 %	
	電気自動車等へ転換した場合のCO2削減量(累計) 730台(平成26年3月末の電気自動車等普及台数)×1.85t(ガソリン車から電気自動車等へ変換した場合のCO2排出係数) (最終目標と目標年度)平成28年度までに11,100tのCO2削減	148 t	1,295 t	1,350 t	

活動計画	どうやって目的を達成するか 電気自動車等1台あたり、車両本体価格の3%(上限10万円)の助成を行いました。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック 順調		
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由 平成25年度実績で、目標を達成していることから、「順調」としました。
	電気自動車等の助成件数	20 台	50 台	53 台	
	市内事業者に対する電気自動車等の購入費用の一部を助成します。	53 台		106.0 %	
				%	

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点</p> <p>電気自動車等の助成については、応募開始から4ヶ月ほどで目標台数に達し、自動車販売店への聞き取りでも、本事業が普及に対して一定の効果があつたと理解できます。</p> <p>【経済性】(同成果を低コストで) 【効率性】(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点</p> <p>電気自動車等の助成については、依然として車両自体が高額であることに加えて、走行可能距離がガソリン車と比較して圧倒的に短いこともあり、助成金額を下げることに對しては、普及を目指す上では、慎重に検討する必要があります。</p>

P D C Aチェックシート(平成 25 年度実績評価)

事業概要						担当局	環境局
						担当課	監視指導課
事業名 工場・事業場監視事業						課長名	二宮
						施策番号	
事業概要 市内の工場・事業場に対し、大気汚染防止法・水質汚濁防止法に基づいて、立入検査及び排ガス・排水中の規制項目に関する測定を実施し、事業者の環境法令の遵守を監視するとともに、環境管理の取り組みを促進するよう促すものです。また、一般市民からの公害関係苦情・要望を受け、発生源指導を行うものです。						事業手法 <input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()	
コスト	事業費	25年度当初予算額	25年度執行額	(事業費備考)	人件費	目金の金額	課長 0.20 人
		21,424 千円	19,916 千円			56,300 千円	係長 1.20 人 職員 5.60 人

【Action】改善			
課題	H23年度の評価結果を受けての課題 公害に関する苦情件数は、この数年、減少傾向にあるものの、市民から継続的に寄せられています。	見直し内容	工場・事業場への立入検査、排ガス測定などは今後も継続する必要がある。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象 (誰を、何を) 大気汚染防止法、水質汚濁防止法等の環境法令の規制を受ける工場・事業場	目指す状態 (どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 法令遵守の徹底を図ります。	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	大変順調
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	成果の状況評価理由 苦情件数は、平成25年度目標は下回った。
	大気、水質、悪臭、騒音等公害に関する市民からの苦情・要望件数	291 件	380 件以下	273 件	
	安心して暮らせる快適なまちづくりを示す指標として設定しました。 (最終目標と目標年度)	266 件		128.2 %	
	(最終目標と目標年度)			%	

活動計画	どうやって目的を達成するか 工場・事業場に対する施設・運転管理状況等確認のための立入検査及び排ガス・排水の測定	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	大変順調	
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	活動の状況評価理由 平成25年度目標は無事達成した。
	工場・事業場に対する立入検査、測定の実施件数(大気、悪臭及び水質に関するもの)	475 件	420 件	478 件	
	立入検査や行政測定の対象とする工場・事業場及び検体数延べ約500のうち、平成25年度は420件について対応することを目標としました。	495 件		113.8 %	
				%	

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点</p> <p>工場・事業場に関する公害苦情は、近年減少傾向にあり、工場・事業場に対する継続的な立入・測定の効果が現れているものと考えます。 今後も、現在の取り組みを継続します。</p> <p>【経済性】(同成果を低コストで) 【効率性】(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点</p> <p>工場・事業場の場所については、経路・時間帯を調整し、複数の事業場に対して、効率よく立入・調査するよう工夫しています。</p>

P D C Aチェックシート(平成 25 年度実績評価)

事業概要					担当局	環境局
					担当課	環境保全課
事業名 大気汚染常時監視システム整備事業					課長名	作花
					施策番号	
事業概要 大気汚染防止法22条の規定に基づく環境大気汚染状況の常時監視を行うため、公害監視センター及び市内21ヶ所に設置した常時監視測定局から成る測定網を整備します。調査結果を本市の環境保全の推進に役立てるとともに、大気環境の現状把握に努めます。					事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
						コスト
10,584 千円	10,584 千円			6,075 千円	係長 0.10 人 職員 0.60 人	

【Action】改善			
課題	H23年度の評価結果を受けての課題	平成23年度は計画通りに事業が進捗しました。平成25年度も計画どおり測定網を整備し、大気環境の現状把握に努めていきます。今後は事業内容を維持しながら、費用を削減することが課題であると考えます。	見直し内容 計画通り測定網を整備するとともに、費用削減に向け、更新計画の見直しを行います。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	市民の健康	大気環境の現況を確認することで、市民の健康を保護し、生活環境を保全します。			
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	大気環境の現状把握	大気環境の現状把握	大気環境の現状把握	大気環境の現状把握	
	光化学オキシダントや微小粒子状物質(PM2.5)等による大気汚染の状況把握のため、連続測定を実施し、大気環境の現状把握に努めます。	大気環境の現状把握		- %	
	(最終目標と目標年度) 大気環境の現状把握			%	

活動計画	どうやって目的を達成するか ・測定局5局の借り入れ及び保守(H20-26) ※大気汚染常時監視システムの一括更新については、別事業にて、平成25年度に更新設計、平成26年度に更新作業、平成27年度より新システムの稼働を計画しています。また、当該別事業では、システム更新までの間、リース期間の終了した公害監視センター及び測定局16局の監視システムの保守を行っています。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	順調	
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	大気汚染常時監視の測定環境の整備	測定の実施	測定の実施	測定の実施	
	大気汚染常時監視システムについて、更新計画に基づき、効率的に測定環境を整備し、正確な測定を継続実施します。	測定の実施		- %	
				%	

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点</p> <p>活動については、予定通り調査・測定(環境モニタリング)を実施しました。成果については、測定結果や知見の集積が進み、大気環境の現状が概ね良好であることが確認できました。</p> <p>「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点</p> <p>大気汚染常時監視システムについて、更新計画を策定し、支出の平準化を図るとともに、総額を抑制するなど適切な支出に努めています。</p>

P D C Aチェックシート(平成 25 年度実績評価)

		担当局	環境局	
		担当課	環境国際戦略課	
		課長名	久保	
事業名	環境国際協力推進事業			施策番号
				VII - 1 - (3) - ①
事業概要	途上国技術者を受け入れる国際研修や経験豊かな市内企業技術者等を諸外国都市に派遣し、現地で相手都市も主体的に関わった実践的な技術指導を実施します。また、国内外の関係機関と協働・連携した調査、情報収集や発信を行うとともに、各種都市間ネットワークを活用したプロジェクトを実施します。更には国際機関等と密に連携して、協力対象国や都市の「緑の成長」にも資する環境国際協力を目指すものです。			事業手法
				<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
コスト	25年度当初予算額	25年度執行額	(事業費備考)	人件費
	25,000 千円	4,119 千円		目金の金額 課長 0.10 人 係長 0.10 人 職員 0.60 人 (人件費備考)

【Action】改善			
課題	H23年度の評価結果を受けての課題	見直し内容	平成25年度においても、マレーシア・ハントワジャヤ市、インドネシア・スラバヤ市、バリクパパン市、西ヌサトゥンガラ州、ブラジル・ミナスジェライス州において事業を展開していく予定です。なお、事業費についてはODA予算など外部資金を活用し本市負担分を縮小しています。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	本市	国、国際機関等の補助事業を活用しながら、環境国際協力の実施を通じた地球環境保全、地球規模での持続可能な社会実現、北九州地域の活性化に資することにより、世界の環境首都の実現を目指します。			大変順調
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由
	戦略的環境国際協力事業の件数			5 件	平成25年度は5件の協力事業を実施しました。目標の4件を上回る達成状況のため評価を大変順調としております。 (協力事業案件) ・マレーシア・ハントワジャヤ特別市(廃棄物管理業務の効率化事業) ・インドネシア・バリクパパン市(環境学習プログラム開発事業) ・インドネシア・スラバヤ市(分散型排水処理施設整備事業) ・ブラジル・ミナスジェライス州(廃棄物管理業務の効率化事業) ・インドネシア・西ヌサトゥンガラ州(廃棄物管理業務の効率化事業)
	本市が有する都市間ネットワークを活用した戦略的な環境分野に関するプロジェクトを実施し、国際機関等と連携を密にして、協力対象国や都市の「緑の成長」にも資する環境国際協力を目指します。	3 件	4 件	125.0 %	
	(最終目標と目標年度)平成28年度までに年間事業数6件を目指します	4 件		%	
(最終目標と目標年度)				%	

活動計画	どうやって目的を達成するか	独立行政法人国際協力機構の草の根事業(地域提案型)および財団法人自治体国際化協会の自治体国際協力促進事業等を活用し、廃棄物分野や環境教育分野において事業を展開していきます。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	大変順調
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由
	事業実施に係る現地派遣回数	-		12 回	平成25年度は12回職員の現地派遣を行い、技術指導や現地協議を実施しました。目標を上回る達成状況のため評価を大変順調としております。
	国際協力事業の実施にあたり、技術指導、現地協議などのために職員を現地に派遣します。	-	8 回	150.0 %	
				%	
				%	

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 国際協力事業の実施件数は5件を達成しました。また、個々の協力事業において、職員の現地派遣を12回行い、現地のニーズに応じた事業実施を行いました。そのため、成果の状況、活動の状況を大変順調としています。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点 独立行政法人国際協力機構の草の根事業(地域提案型)および財団法人自治体国際化協会の自治体国際協力促進事業を活用することで、本市の財政負担を軽減しています。

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	環境国際戦略課
課長名	久保
施策番号	
VII - 1 - (3) - ①	
事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金
	<input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金
	<input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理
	<input type="checkbox"/> その他
()	
(人件費備考)	

事業概要						
事業名	アジアの環境人材育成拠点形成事業				実施期間	
事業概要	アジアの途上国やその都市が自らの力で環境改善の取組を進めることができるよう、人材育成に向けてJICA等国の支援や連携により、実践的な国際環境研修事業を推進していくものです。本市の環境国際協力の原点である環境人材育成は、「世界の環境首都」を目指す本市の取組の一貫であり、海外からの研修員を受け入れることにより、世界的規模で進んでいる環境問題解決の一助を担うとともに、現地の環境改善や海外諸都市とのネットワーク構築、ひいては環境国際ビジネスへの事業展開に繋がるものです。				事業費	
コスト	25年度当初予算額	25年度執行額	(事業費備考)	人件費	目金の金額	課長 0.10 人
	2,435 千円	1,345 千円			4,400 千円	係長 0.10 人 職員 0.30 人

【Action】改善		
課題	H23年度の評価結果を受けての課題	見直し内容 事業は順調に推移しており、引き続きKITAやJICAと連携を図りながら、事業を実施していきます。また、事業経費については縮小致しますが、時代の変遷に伴う新規研修プログラムの構築などを行うことで研修事業の魅力を高めていき、これまで以上に多くの研修員を受け入れていきます。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	本市	アジア地域の行政官を対象に研修を実施することにより、現地での環境改善において中心的な役割を果たす人材を育成するとともに、本市職員・関係機関職員の能力開発を行うことで、アジアの環境人材育成拠点を目指します。			大変順調
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由
	アジアの環境人材育成のための研修員等の受講者数(単年度)	431 人	430 人	993 人	目標である430名を大きく上回る達成状況のため、成果の状況を大変順調としました。
	アジアの途上国やその都市が自らの力で環境改善の取組を進めることができるよう、本市において環境人材育成を行います。あわせて、海外において指導できるよう、本市の環境人材を育成します。	900 人		230.9 %	
	(最終目標と目標年度)H24~H28年度 2,200人受入				
(最終目標と目標年度)			%		

活動計画	どうやって目的を達成するか	平成24年度から平成28年度までの5年間に、2,200人の研修員を受け入れるため、国内外での研修誘致活動を行います。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	大変順調
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由
	国内外での北九州市への研修誘致	-	3 回	5 回	目標の3回を上回る達成状況のため、評価を大変順調としました。
	市職員を国内外に派遣し、公害を克服した本市の技術、ノウハウや環境政策のPR、研修誘致を行います。	4 回		166.7 %	
			%		

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点</p> <p>研修員受入数は、目標である430名を達成しました。環境未来都市、グリーンアジア国際戦略総合特区やOECDグリーンシティプログラムのグリーン成長都市への選定などにより、本市の環境に対する取組が国内外から注目を集めたことや、誘致活動を積極的に実施した結果と考えており、成果の状況、活動の状況ともに大変順調としています。</p> <p>「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点</p> <p>(公財)北九州技術協力協会(KITA)や、(独)国際協力機構(JICA)などと連携することで、コストの軽減を図りました。また、国内外への出張において本市の環境政策のPRを行う際に、本市への研修誘致を行うことで、コストをかけずに誘致活動を実施しました。</p>

PDCAチェックシート(平成25年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	環境国際戦略課
課長名	長濱
施策番号	
VII - 2 - (1) - ①	
事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
コスト	25年度当初予算額 25年度執行額 (事業費備考) 38,546 千円 29,725 千円 目金の金額 課長 2.05人 87,200 千円 係長 2.80人 職員 4.75人 (人件費備考)

事業概要			
事業名	アジア低炭素化センター推進事業		
事業概要	環境モデル都市に掲げた温室効果ガス削減目標を達成するため、平成22年6月に開設された「アジア低炭素化センター」の事業を推進し、環境に資する多様な技術等を海外に移転することで、地域経済の活性化を推進し、アジア地域の低炭素化社会の実現を目指すものです。		

【Action】改善	
課題	H23年度の評価結果を受けての課題 アジア地域でのCO2削減という目標達成のために、市内企業の環境技術アジアのニーズに即して輸出することが重要であると考え、事業実現可能性調査等各種プロジェクト推進に加え、24年度は「グリーンシティ輸出のための北九州モデル構築事業」を実施し、パッケージ輸出のためのモデル構築を図り、アジア展開を着実に進めています。今後は、現在海外でのCO2削減量を数値で表すことが困難なため、定量化の仕組みづくりにも取り組みます。
見直し内容	アジア地域でのCO2削減に向け、事業実現可能性調査の実施などを通じて、各種プロジェクトの事業化を目指します。プロジェクトの実施にあたり、国からの調査受託事業の活用に加え、「国際戦略総合特区」や「環境未来都市」等の国からの補助事業の予算を活用することで、市単独の経費を削減しつつ、エネルギー、リサイクル分野などにおける環境負荷低減プロジェクトを実施します。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を) アジア地域 目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 企業のビジネス展開を支援し、アジア地域でのCO2排出量を削減します。	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック 順調	成果の状況	順調
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方) アジア地域でのCO2排出量を削減 2050年に、本市の2005年比で、150%相当のCO2排出量を、アジア地域で削減することを目標とします。 (最終目標と目標年度) 150%削減(2050年)	上段:23年度実績 下段:24年度実績 25年度目標 単年度目標設定なし	25年度実績(達成率)	成果の状況評価理由 単年度の成果を数値検証することは困難ですが、CO2排出量の削減に向けて、事業実現可能性調査の実施などを通じて、各種プロジェクトを推進しているためです。	
	(最終目標と目標年度)		%		

活動計画	どうやって目的を達成するか 国からの調査受託事業などを活用するなど、市内企業とともに各種のプロジェクトを実施します。また海外でのビジネス展開を図るため、国内外の商談会への参加支援などを実施します。さらに、海外の各機関、各都市との連携協力を図ります。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック 順調	活動の状況	順調
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明) プロジェクト推進数 国からの調査受託事業を活用するなど、市内企業とともに各種のプロジェクトを実施します。 企業協議、ビジネスマッチング数 市内企業の海外でのビジネス展開を進めるため、企業との協議を実施するほか、同センターが仲介し、市内企業と相手企業とのビジネスマッチング等を行うことで、ビジネスを支援します。	上段:23年度実績 下段:24年度実績 25年度目標 46件 430件	25年度実績(達成率) 58件 126.1% 443件 103.0%	活動の状況評価理由 プロジェクト推進数及び企業協議、ビジネスマッチング数とも目標を達成しているためです。	

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 現時点において海外でのCO2削減量を数値で表すことは困難ですが、国からの調査受託事業やビジネスマッチング支援などを通じて、市内企業とともに各種の事業を行いました。また、各種プロジェクトを実施する上で、本市の都市環境インフラに係る技術やノウハウを体系的にまとめた「北九州モデル」を支援ツールとして活用しながら、アジア諸都市や企業が多様なニーズに対応した都市環境インフラのパッケージ輸出を推進しました。以上より、順調と判断しました。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活導入の視点 環境ビジネス展開に必要な現地での事業実現可能性調査等に関して、本年度も多くの国等の事業に採択されました。これら国等の資金を活用することで、本市の負担額の削減に努めています。

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	環境国際戦略課
課長名	本島
事業番号	
VII - 2 - (1) - ①	
事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
コスト	25年度当初予算額 25年度執行額 (事業費備考) 8,750 千円 8,560 千円 目金の金額 課長 0.05 人 2,325 千円 係長 0.10 人 職員 0.10 人 (人件費備考) 担当課のみ。ただし業務の一部を委託しています。

事業概要			
事業名	中小企業アジア環境ビジネス展開支援事業		
事業概要	アジア地域等の海外に低炭素化技術の輸出を目指す市内中小企業を対象に、自社が所有する既存の技術・製品を、海外でのニーズに合わせた現地での実証試験、または事業可能性調査(FS)に要する費用の一部を助成し、市内企業の海外への技術輸出の推進を図ります。		
コスト	25年度当初予算額 25年度執行額 (事業費備考) 8,750 千円 8,560 千円 目金の金額 課長 0.05 人 2,325 千円 係長 0.10 人 職員 0.10 人 (人件費備考) 担当課のみ。ただし業務の一部を委託しています。		

【Action】改善		
課題	H23年度の評価結果を受けての課題 技術移転という目標達成のためには、実証試験の前段階で事業の可能性調査が必要であると考え、24年度より事業対象に事業可能性調査を追加しました。	見直し内容 平成25年度は採択案件のより一層の精査のため事業費は縮小いたしますが、平成24年度に拡充した事業可能性調査は引き続き実施予定です。また、平成23年度からの採択事業者のその後の事業進捗状況の把握に努めます。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	大変順調
目的	アジア地域等の海外に低炭素化技術の輸出を目指す市内中小企業	自社が所有する既存の技術・製品を、海外でのニーズに合わせた現地での実証試験、または事業可能性調査(FS)に要する費用の一部を助成し、市内企業の海外への技術輸出の推進を図ります。			
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	海外での実証事業等の進出数(単年度)				これまでの3年間に於いて、実証枠7件、事業可能性調査(FS枠)1件と、順調に市内企業のアジア展開を支援しています。そのため、大変順調と評価しました。
	本事業は、市内中小企業の海外への技術輸出推進を目的として、費用の一部を助成するもので、「海外での実証事業等の進出数」を成果指標とします。なお、本来はビジネスでの進出数が指標として望ましいのですが、まずは実証事業等の実績を着実に積み重ねることで、将来的なビジネス進出につなげたいと考えています。	2 件	2 件	2 件	
	(最終目標と目標年度)H27年度まで 10件	4 件		100.0 %	
(最終目標と目標年度)			%		

活動計画	どうやって目的を達成するか 4月から事業の公募を行い、6月に採択企業を決定します。各企業の事業進捗状況の確認を行い、経費の執行状況についても適宜検査します。また、各企業の事業完了後に事業内容の報告を受けるとともに精算を行います。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	順調	
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	申請書のダウンロード数				企業の事業展開支援を図るため、採択企業の事業進捗状況を適宜確認しています。目標数値を概ね満たしていると考えられるため、順調と評価しました。
	本事業の認知度を判断します。事業を広く周知することで、市内企業の海外展開への意欲向上を図ります。	9 件	10 件	6 件	
	採択企業の事業の進捗状況確認件数	15 件		60.0 %	
採択企業の事業の進捗状況を確認することで、事業の適正な推進を図ります。	2 件	2 件	2 件		
		4 件		100.0 %	

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点</p> <p>25年度は、実証事業等の進出数目標2件を達成し、また採択企業の進捗状況確認数も2件と、成果の状況、活動の状況ともに順調です。 25年度は実証枠3件の申請件数のうち、2件を採択しました。</p> <p>【経済性】(同成果を低コストで) 【効率性】(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点</p> <p>企業の採択にあたっては、産学官各界よりの審査員による公平・適正な審査を行うとともに、事業の進捗状況等の調査を外部の専門家に委託することで、迅速で効率的な事業運営を行っています。</p>